

大阪府泉州地域産陸・淡水棲軟体動物チェックリスト

上地 健琉¹⁾・児嶋 格¹⁾・馬場 雄司²⁾・山田 浩二³⁾・柏尾 翔¹⁾

Annotated checklist of terrestrial and freshwater mollusks in Senshu area, Osaka Prefecture, Japan

Takeru UECI¹⁾, Tadasu KOJIMA¹⁾, Yuji BABA²⁾, Koji YAMADA³⁾, Sho KASHIO¹⁾

Abstract: Based on literature and museum specimen databases through 2023, an annotated list of terrestrial and freshwater mollusks from Senshu area is compiled, reporting 138 species complex, species, or subspecies classified in 2 classes, 13 orders, and 39 families. These include the following records: 1) 6 species first recorded in Senshu area, 2) 19 species that can be clearly determined to be non-native (alien species), and 3) 11 species for which records are uncertain because they are not illustrated, described, or specimens in museum collection.

Key words: Mollusks fauna, first records, museum collections

キーワード: 軟体動物相, 初記録, 博物館収蔵コレクション

はじめに

大阪府の南西部に位置する泉州地域（堺市・高石市・泉大津市・和泉市・忠岡町・岸和田市・貝塚市・熊取町・泉佐野市・田尻町・泉南市・阪南市・岬町から構成される地域；図1）では、アマチュア研究者などの個人または博物館活動による陸・淡水棲軟体動物に関する定性的な調査が継続的に行われているが、それらの情報は大阪府レッドデータブックの作成の際に大阪府環境農林水産部緑の環境整備室（2000a, b）および松村（2001）によってまとめられて以降は体系的な整理がなされておらず、様々な媒体に散見される現状である。

これらの分布情報の検証やその他の学術研究および生物多様性保全における活用を促すため、既存の文献および標本の情報を整理し「大阪府泉州地域産陸・淡水棲軟体動物チェックリスト 2024（以下、チェックリスト；付表）」としてまとめた。

材料および方法

本報告では陸・淡水棲軟体動物を「軟体動物門に所属する分類群のうち生活史における一部または全部を陸域または淡水域（汽水域・潮間帯・飛沫帯は含まない）で生活するもの」と定義した。

チェックリストは2024年1月までの文献資料および標本データベースにおける陸・淡水棲軟体動物の記録のうち、郡・市町村名、それ以下の詳細地名、特定地域を示す固有名称（牛滝山・和泉葛城山・

Contributions from the Natural History Museum, Kishiwada City, No. 61 (Received February 14, 2024)

1) きしわだ自然資料館 〒596-0072 大阪府岸和田市堺町 6-5

Natural History Museum, Kishiwada City, 6-5 Sakaimachi, Kishiwada, Osaka, 596-0072 Japan

2) 大阪経済法科大学国際学部国際学科 〒581-8511 大阪府八尾市楽音寺 6-10

Department of Global Studies, School of International Studies, Osaka University of Economics and Law, 6-10 Gakuonji, Yao, Osaka, 581-8511 Japan

3) 貝塚市立自然遊学館 〒597-0091 大阪府貝塚市二色 3-26-1

Kaizuka City Museum of Natural History, 3-26-1 Nishiki, Kaizuka, Osaka, 597-0091 Japan

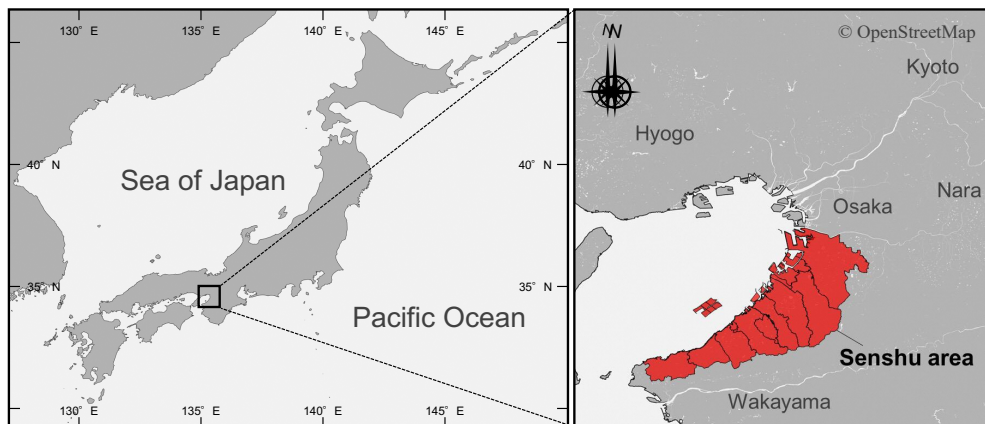


図 1. 泉州地域の位置 (Location of Senshu area).

犬鳴山など) から泉州地域における分布情報と判断できるものと、著者らによる野外調査で得られた標本の情報をリストアップして作成した。このうち河口などに打ち上げられた貝殻の記録は除いた。

文献資料における分布情報は、大阪府の博物館およびそれらに付随する友の会による出版物を網羅的に参照し、国内の学会や大阪府周辺の地方自治体・同好会による出版物、国際誌、書籍もなるべく網羅的に参照して抽出した。ただし、2000 年以前の出版物については、原則として大阪府環境農林水産部緑の環境整備室 (2000a, b) および松村 (2001) の文献リストによってある程度は網羅されているものとみなし、その他は著者らが把握している範囲外での積極的な探索はしていない。

標本情報はサイエンスミュージアムネット (<https://science-net.kahaku.go.jp/>), きしわだ自然資料館および貝塚市立自然遊学館の収蔵資料データベース (非公開), 西宮市貝類館の収蔵資料データベース (オンライン: https://shellmuseum.jp/shell_db/specimen_search.php) から抽出した。きしわだ自然資料館および貝塚市立自然遊学館に登録・保管されている標本には、2020 年から 2023 年にかけての著者らによる任意の採集方法で得られた陸・淡水棲軟体動物が含まれる。標本に関する情報の詳細は GBIF (Global Biodiversity Information Facility; <https://www.gbif.org/>) またはサイエンスミュージアムネットを参照されたい。

チェックリストの凡例

チェックリストにおける科以上の上位分類階級およびその配列は福田 (2021) に従い、綱・目・科のみを表記した。それ以下の分類はなるべく最新の分類学的知見に基づくタクソン名を採用し、学名またはそれに準ずる名称のアルファベット順に配列した。各タクソン名の下行には分布記録のソースとなる文献または標本 (所蔵機関の略記) を列挙し、続いてステータスを付記した。

特筆すべきタクサについては必要に応じて検討標本 (記載の対象とする代表的な標本)・参考標本 (記載の対象としない標本)・記載 (検討標本に基づく)・分類 (分類学的知見の簡単なレビューとチェックリストにおける措置)・備考を詳述した。記載における計測値は原則としてノギスを用いて 0.1 mm 単位で直接計測し、螺層数 (巻き数) およびミズコハクガイの全ての計測項目は馬場・上地 (印刷中) と同様の方法で算出・計測した。

チェックリストにおける一部の文献の編者名、機関名、絶滅リスクに関するステータスとレッドリスト、その他のステータスは表 1 の下に示した略記を用いた。

特筆すべきタクサに関する付記

イシガイ属の一種 *Nodularia* sp. (図 2)

検討標本: KSNHM-M06486, 和泉市王子町惣ヶ池水源地第二貯水池, 2022 年 5 月 24 日。

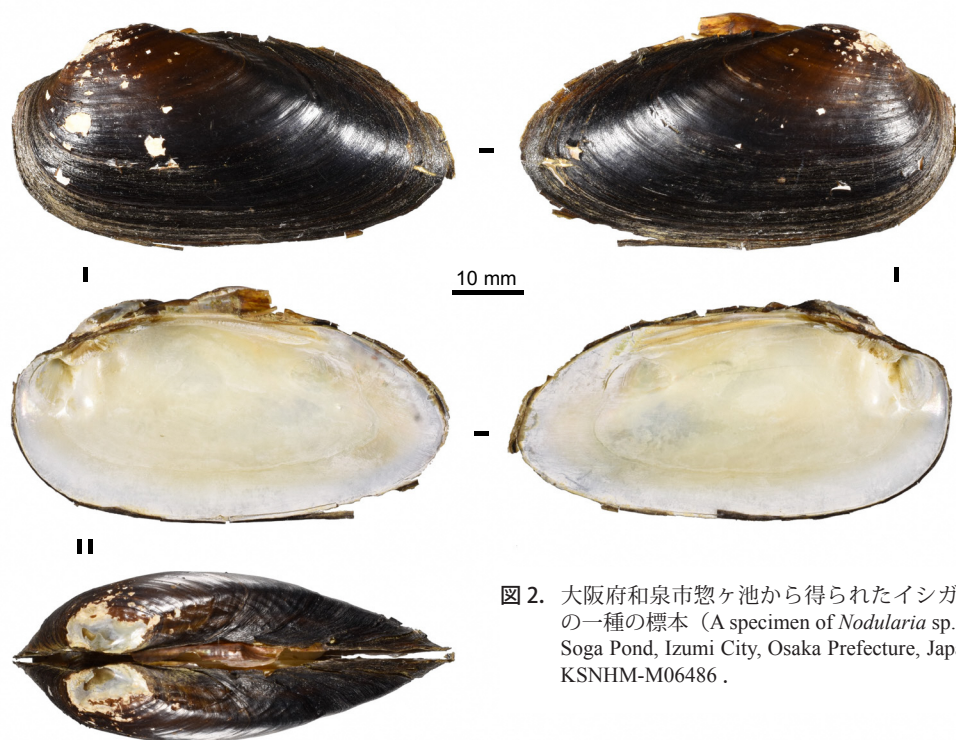


図2. 大阪府和泉市惣ヶ池から得られたイシガイ属の一種の標本 (A specimen of *Nodularia* sp. from Soga Pond, Izumi City, Osaka Prefecture, Japan), KSNHM-M06486.

参考標本：KSNHM-M06481-06485, 06487, 06488, 同上.

記載：殻長 61.8 mm, 殻高 32.4 mm, 殻幅 23.1 mm. 貝殻は長卵形で膨らみが強く、分厚くて堅固。背縁と腹縁は平行に走り、いずれも直線的でわずかに曲線を描く。前縁は強く弧を描き、前背縁との接合部は明瞭に角張る。後端は嘴状でやや丸みを帯びる。殻頂は前方に位置する。殻頂部は盛り上がり、表層が摩滅し真珠層が露出する。殻表は全体的に平滑で光沢を帯び、後背部に漣状の彫刻がある。殻表の色彩は殻頂部付近では茶色の地に不明瞭で繊細な黒褐色の放射彩があり、腹部と後部は漆黒を呈する。外韧带は背面から見ると垂三角形で、やや太く顕著に盛り上がり、黄赤を呈する。内面は真珠光沢が弱く、乳白色を呈する。擬主歯は右殻では垂三角形の1本、左殻では台形1本とその1/3程度の大きさで三角形の1本が認められる。後側歯は後背縁の後端に達する薄い板状で、右殻に1本、左殻2本が認められる。

分類：日本産のイシガイ属 *Nodularia* Conrad, 1853 は、雌型 mtDNA の COI 領域において遺伝的分化が認められる2系統をそれぞれ独立種とみなし、*N. douglasiae* (Griffith and Pidgeon, 1833) および *N. nipponensis* (Martens, 1877) が有効名、*N. biwae* Kobelt, 1879 が *N. nipponensis* の新参異名とされている (Klishko *et al.*, 2017; Lopes-Lima *et al.*, 2020)。両種間の形態的特徴については検討されておらず、現時点では形態のみに基づく同定はできない。また、近畿地方は両種の分布境界に当たり、琵琶湖・淀川水系では両系統のハプロタイプが確認されている (Sano *et al.*, 2017, 2020; Lopes-Lima *et al.*, 2020; Mabuchi *et al.*, 2020, 2021)。そのため、両種は分布境界周辺では共存している可能性、浸透交雑が生じている可能性があり、分布域に基づいて同定するには情報が不十分である。

備考：泉州地域では本属の記録は初となる。本種は 2021 年に和泉市の惣ヶ池で死殻が発見され (淡路, 私信), その後の調査で複数の死殻が採集された。惣ヶ池は近年の利用の変化により、最初の発見時から現在に至るまで減水が続いている。そのため、本種が見つかった砂底環境は消失しており、本種は既に絶滅した可能性がある。その一方で本種を含むイシガイ科の貝類は幼生期に一定期間魚類に寄

生する生態をもつため (Kondo, 2008), 人為的な魚類の移動に伴って自然分布域外に導入される可能性がある。泉州地域では古くから淡水魚の養殖が盛んな地域であるため, 学術研究および生物多様性保全における分布記録の活用の際には本種を含むイシガイ科の貝類が種苗放流に伴って導入された外来種である可能性を考慮する必要がある。

マツカサガイ *Pronodularia japonensis* (Lea, 1859)

分類: 本種の分類は別種に相当する 3 群 (*P. cf. japonensis* 1–3) への細分化が提案されている (Lopes-Lima *et al.*, 2020). この分類は雌型 mtDNA の系統に基づくもので, Kondo (2023) はそれぞれが独立種であることを支持する特徴として, *P. cf. japonensis* 1 vs. *P. cf. japonensis* 3 の幼生形態における殻長と殻高の比率および幼生の宿主適合性 (変態前の離脱率) に違いがあることを挙げている。しかしこれらの差異は各群 1–3 集団の比較によるもので, 種内変異のレンジがカバーされていない可能性が高いこと, 宿主適合性は異なる実験手法による結果の比較であることから, 種間の差異として判断するには不十分である。また Kondo (2023) は *P. japonensis* のレクトタイプと 3 群の成員における殻長, 殻高, 殻幅およびそれらの比率を比較し, *P. cf. japonensis* 3 を狭義のマツカサガイと結論づけた。しかしこれも検討された集団数が少なく種内変異のレンジがカバーされていない可能性が高いこと, 各形質においてレンジの大半が重複すること, レクトタイプがいずれの群のレンジにも含まれないことから, 集団数および測定形質を増やした再検討が必要である。これらをまとめると, マツカサガイには隠蔽種が含まれる可能性が示唆されるものの, mtDNA の系統が分化した 3 群を独立種とするには根拠が不十分であり, レクトタイプの位置づけも不明瞭であることから, 現段階では *P. cf. japonensis* 1–3 の 3 群を別タクソンとして区別せずに扱うのが妥当と考えられる。

備考: 泉州地域における本種の記録は 1947 年 4 月の岸和田市阿間河滝町と 2008 年 3 月の堺市中区の標本があるのみで, それ以降は再確認されていない (上地, 2020a)。

オグラヌマガイ *Sinanodonta tumens* (Haas, 1910) (図 3-A)

検討標本: KSNHM-M01853, 岸和田市, 採集年月日不詳 (中島徳一郎コレクション)。

記載: 殻長 81.3 mm, 殻高 53.6 mm, 殻幅 31.0 mm. 貝殻は卵形で膨らみが強く, 脆薄で乾燥により割れている。前面から見た輪郭は紡錘形で, 最も膨らみの強い場所は貝殻の中程からやや下に位置する。背縁はほぼ直線状で翼状突起の痕跡が残り, 外靱帯を覆う。前縁から復縁は強く弧を描き, 前背縁との接合部は明瞭に角張る。後端は嘴状でやや丸みを帯びる。殻頂は背縁の中央よりもやや前方に位置する。殻頂部は盛り上がらない。殻表は全体的に平滑で光沢を帯び, 成長脈に沿って同心円状に広がる太い波状の輪肋がある。殻表の色彩は全体的に黄土色を呈し, 繊細な褐色の放射彩がある。内面は真珠光沢が強く, 白色を呈する。擬主歯と後側歯を欠く。

分類: 本種は京都府南部の “Yamashiro” (おそらく巨椋池) から採集された 3 個体のシントタイプに基づいて記載され (Hass, 1910), シントタイプのうち 1 個体は The MUSSEL Project (Graf and Cummings, 2024) のホームページ上で公開されている。その一方で残りの 2 個体については記載後の再検討はされておらず, 別種の標本が含まれる可能性があるため, 現段階での学名の有効性は確実なものではない。淀川から記載された *Oguranodonta ogurae* Kuroda and Habe, 1987 は本種の新参異名である (Lopes-Lima *et al.*, 2020). 本種は幼貝の殻頂の前後に翼状突起があり, 成長脈に沿って同心円状に広がる太い波状の輪肋があることから後述の他のドブガイ類と区別される (Kondo, 2008)。

備考: 本種は淀川水系固有種とされており (Kondo, 2008), その他の水系では初記録となる。イシガ

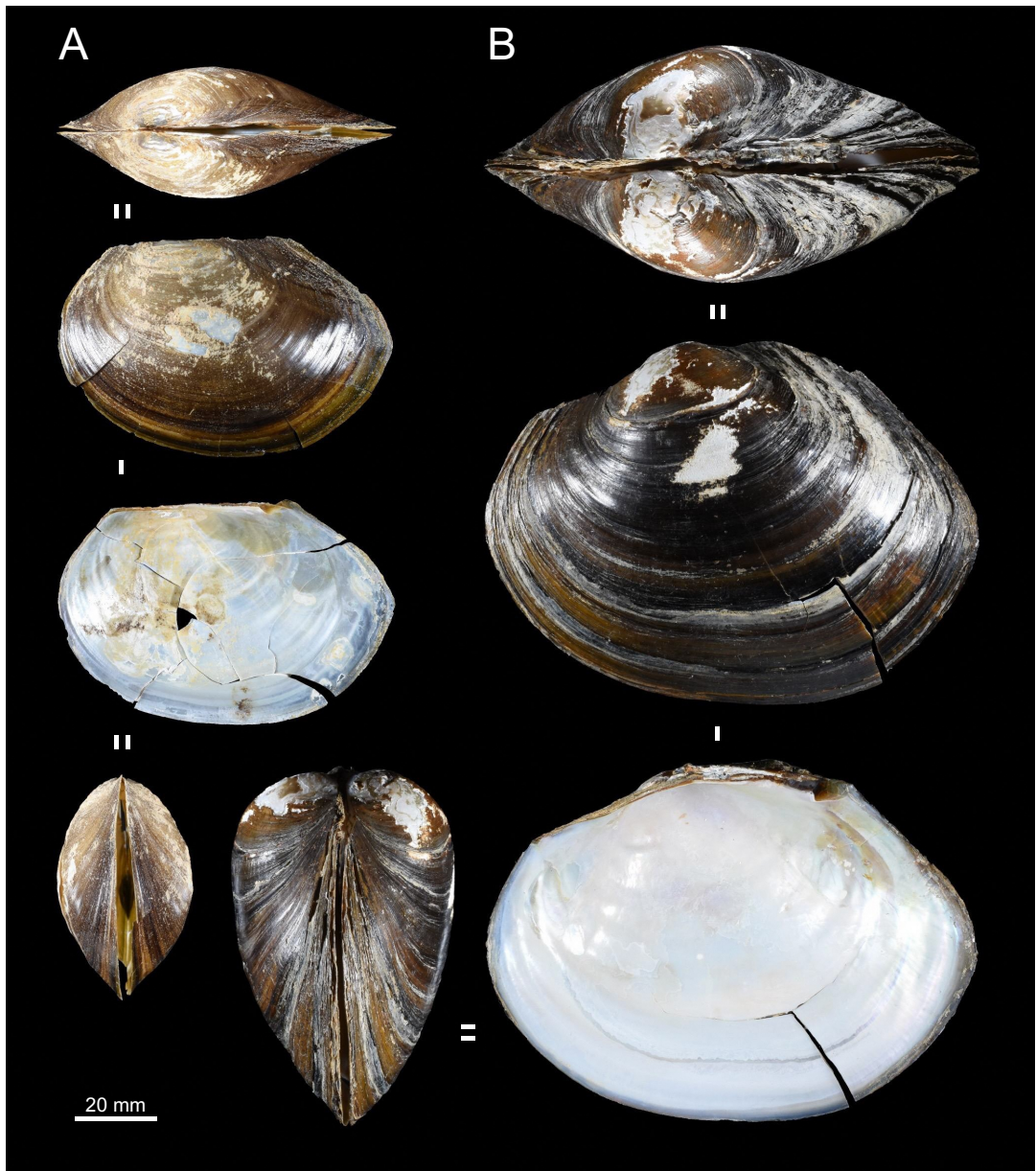


図 3. 大阪府泉州地域から得られたドブガイ属の標本 (Specimens of *Sinanodonta* from Senshu area, Osaka Prefecture, Japan). A : オグラヌマガイ *S. tumens*, KSNHM-M01853, 岸和田市 (Kishiwada City). B : ヌマガイ種群 *S. lauta* species complex, KSNHM-M00606-1, 貝塚市 (Kaizuka City).

イ属の一種の項で記した通り、本種は淡水魚養殖における種苗放流に伴って泉州地域に導入された可能性がある。

ヌマガイ種群 *Sinanodonta lauta* species complex (図 3-B)

検討標本：KSNHM-M00606-1, 貝塚市橋本, ボタン池, 2003 年 2 月 11 日.

参考標本：KSNHM-M00606-2, 同上；KSNHM-M06309-06311, 泉佐野市南中樫井, 2021 年 7 月 13 日.

記載：殻長 120.1 mm, 殻高 88.3 mm, 殻幅 54.8 mm. 貝殻は卵形で膨らみが強く、やや分厚いものの

乾燥によりひび割れしている。前面から見た輪郭はハート形で、最も膨らみの強い場所は貝殻の上方に位置する。背縁は緩い弧を描き、外靱帯を覆う。前縁から復縁は強く弧を描き、前背縁との接合部は明瞭に角張る。後端は嘴状でやや丸みを帯びる。殻頂は背縁の中央よりもやや前方に位置する。殻頂部は高く盛り上がり、表層が摩滅し真珠層が露出する。殻表は全体的に平滑で光沢を帯び、殻頂部に漣状の彫刻がある。殻表の色彩は全体的に赤褐色を呈し、太い緑色の放射彩がある。内面は真珠光沢が強く、乳白色を呈する。擬主歯と後側歯を欠く。

分類：日本産のドブガイ属 *Sinanodonta* Modell, 1945 は雌型 mtDNA の COI 領域において遺伝的分化が認められる 4 系統をそれぞれ独立種とみなし、マルドブガイ *S. calipygos* (Kobelt, 1879)、ヌマガイ *S. lauta* (Martens, 1877)、オグラヌマガイ、ドブガイ *S. cf. woodiana* 1 sensu Lopes-Lima *et al.*, 2020 の 4 種に分類されている (Lopes-Lima *et al.*, 2020)。その一方でゲノムワイドな SNPs データを用いた系統解析では日本産の本属は 6 系統に分化しており、mtDNA との系統の不一致が報告されている (Sano *et al.*, 2022)。このことから前述の mtDNA に基づいて種を区分する分類は妥当でないことと、別種に相当する集団間で交雑が生じていることが示唆される。これらの研究では mtDNA の複数の系統が日本列島の広い範囲で分布域を共有することが明らかになっていることに加え (Lopes-Lima *et al.*, 2020; Sano *et al.*, 2022; 川瀬, 2023)、オグラヌマガイ (この種のみ mtDNA およびゲノムワイドの双方で単系統) 以外は種間の形態的差異がみだされていないことから、現段階では形態または分布域に基づく同定はできない。同様の理由から各名義タクソンの担名タイプの位置付けも明らかでない。そのため、現段階での暫定的な措置としてはオグラヌマガイ以外の日本産ドブガイ属を種群として扱うのが妥当と考えられる。Lopes-Lima *et al.* (2020) 以前の分類ではこの種群はヌマガイに同定されていたため (近藤ほか, 2006; Kondo, 2008)、この種群に対する総称としてヌマガイ種群 *Sinanodonta lauta* species complex を提唱する。なお、国外に分布する類似種に対してもこの総称を適用するかはここでは議論しない。

ヌマガイ種群はドブガイ属と姉妹群の関係にあるタガイ属 *Beringiana* Starobogatov in Zatravkin, 1983 との識別も難しく、これらは区別されずにドブガイ類と総称されることが多い。両属は分布域を共有するものの mtDNA およびゲノムワイドともにそれぞれ単系統群であり、多遺伝子座のアロザイム分析からも属間交雑やその痕跡は見つかっていない (田部ほか, 1994; 福原ほか, 1994; Sano *et al.*, 2022)。そのため両属は遺伝的特徴に基づいて別タクソンとして区別できるものの、それぞれ属の標徴となる形質は見出されていない。ドブガイ類のうち泉州地域が分布域に含まれるミナミタガイとヌマガイ種群については、Kano *et al.* (2019) および川瀬ほか (2023) において mtDNA に基づいて同定された個体の画像が公開されているほか、福原ほか (1994)、近藤ほか (2006)、Kondo (2008)、瀬尾ほか (2020) によって各種・種群に相当するタクソンの形態について報告されている。これらの情報から、グロキディウム幼生の鈎状突起上にある 10 μm 以上の突起の数が有効な識別形質となる可能性が高く (ミナミタガイでは約 10 本以下、ヌマガイ種群では約 12 本以上)、若貝から成貝の特徴では殻表の緑色または赤色の太い放射彩 (殻頂を中心とする放射状の色帯) がヌマガイ種群のみに見られる形質の可能性が高い (ただし老成すると殻表が全体的に黒色を呈するため、放射彩が不明瞭になる) と考えられる。またミナミタガイよりもヌマガイ種群の方が大型になることも傾向的な特徴として挙げられる。これらの形質に基づいて分類すると、泉州地域に生息するドブガイ類はほとんどがミナミタガイに同定され、近木川水系と榎尾川水系から得られた 2 集団の標本のみがヌマガイ種群に同定された。

イケチョウガイ *Sinohyriopsis schlegelii* (Martens, 1861)

備考：昭和 30 年から 44 年までの間、大阪府ではイケチョウガイを主要な母貝とする真珠生産が行

われていたが（その他の母貝として”カラス貝”＝おそらくメンカラスガイ,”ドブ貝”＝ミナミタガイまたはドブガイ種群が挙げられている）、母貝の入手が困難になったことで衰退した（矢田, 1997）。この事業により泉州地域では少なくとも貝塚市の市役所付近の池・松原池, 岸和田市の坂口池, 堺市の船尾池・御廟池に母貝が移植された記録があるが（矢田, 1997; 西出, 2018）、具体的な種については明らかでないためチェックリストには掲載していない。

台湾シジミ *Corbicula fluminea* (Müller, 1774) + マシジミ *C. leana* Prime, 1864

分類: シジミ属 *Corbicula* Megerle von Mühlfeld, 1811 の淡水棲種である台湾シジミとマシジミの分類は統一的な見解が得られていない。両種は貝殻形態における複数の型（詳しくは横山, 2019 にまとめられている）、複数の倍数性の存在が知られる（Qiu *et al.*, 2001; Okamoto and Arimoto, 1986）。また、両種は特殊な生殖様式を持ち、基本的には雌雄同体で自家受精し雄性発生するとされるが、核 DNA および mtDNA の系統間不一致が見られることから交雑が生じているという指摘もある（Hedtkke *et al.*, 2008; Houki *et al.*, 2011; Vastrade *et al.*, 2022）。これらの複雑な特性が種の認識を難しくしており、現段階では形態的な型に対応する種名は定まっていない。瀬尾ほか（2020）は、*C. leana* を *C. fluminea* の新参異名とする Huber（2015）の措置に従い、その和名をマシジミとした。しかし、侵略的外来種である台湾シジミ（環境省・農林水産省, 2015: 総合対策外来種）と重要な保全単位として位置づけられるマシジミ（酒井ほか, 2014）を決定的な根拠がないまま同種とする分類学的措置は保全上の問題を生む可能性があり、現段階ではこれらの異なる実体としての認識を維持するのが望ましいと考えられる。泉州地域に生息する本属の淡水棲種の形態には複数の型があり（上地・柏尾, 2020, fig. 2-B）、台湾シジミとマシジミがともに分布している可能性が高い。そのため、本報告ではこれらの種名を併記する措置をとった。

ヤマクルマに比較される種 *Spirostoma cf. japonicum* (Adams, 1867) (図 4)

検討標本: KSMHN-M06681, 貝塚市馬場, 2023 年 7 月 14 日; KSMHN-M06706, 貝塚市馬場, 2023 年 8 月 9 日。

記載: KSMHN-M06681 では殻長 1.6 mm, 殻径 3.5 mm, 螺層数 2.75, KSMHN-M06706 では殻長 1.5 mm, 殻径 3.2 mm, 螺層数 2.39。貝殻は円盤状の右巻きで脆薄。螺塔は次体層よりもわずかに窪み、臍孔は広く、周縁部は丸い。螺管は次体層までは成長とともに太くなり、それ以降は殻口までほぼ均一の太さで巻き、次体層は体層よりも大きく盛り上がる。縫合は顕著に縊れる。殻口は円形で反転しない。殻表は体層において殻皮が反転して形成される粗い成長脈が見られ、光沢があり、半透明の淡黄色を呈する。蓋は薄質で半透明の淡黄色を呈し、円形で核がほぼ中心にあり、内縁が蓋の裏側に折れ込んで薄い板状に立ち上がった立体構造を成し、螺旋状に巻く。頭触角は棒状で黒色を呈し、その根元に一對の目をもつ。頭部から腹足にかけては半透明の白色を呈し、不透明で純白の斑点が散在する。肝臓は赤茶色を呈する。

分類: 本種の形態は一見すると東（1982）によってまとめられた日本産陸棲軟体動物のいずれとも異なる形態的特徴を有し、成長脈および蓋の基本的な構造は Cole（2019）によって示された *Afrocyclus* Cole, 2019, *Chondrocyclus* Ancy, 1898, *Cyclotus* Swainson, 1840 の 3 属の特徴と共通する。これら 3 属はアフリカ大陸南部に分布しており、本種と共通した形態的特徴は平行的に獲得した可能性が高い。その一方で本種と同様に蓋を有する種としてヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1861, アツブタガイ *Cyclotus campanulatus* Martens, 1865, イノウエヤマトガイ *Japonia inouei* Kuroda and Habe in Habe, 1961, ミヤコムシオイ *Metalycaeus hirasei* (Pilsbry, 1900), ヤマクルマ *Spirostoma japonicum* (Adams, 1867) が同所か

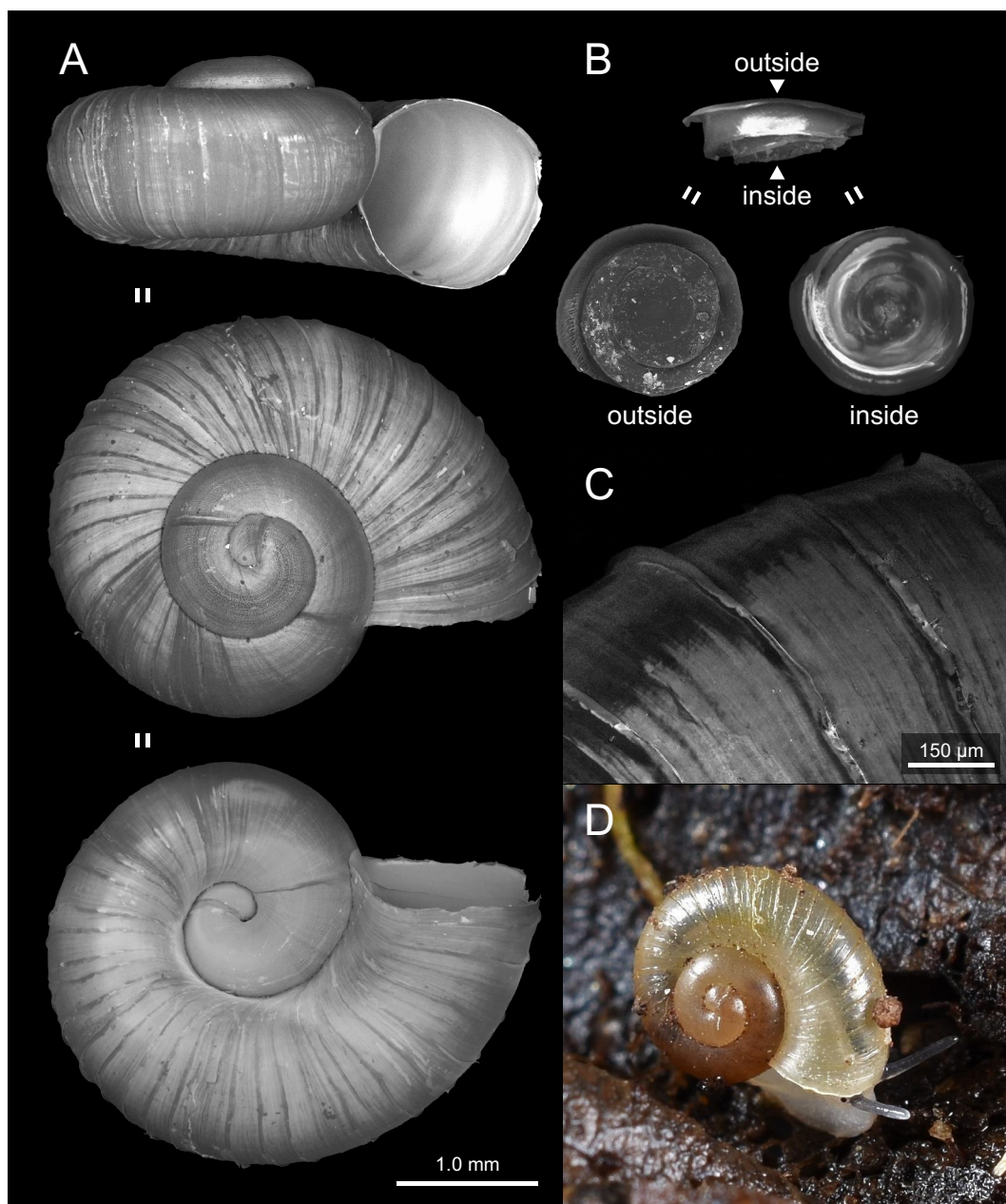


図 4. 大阪府貝塚市から得られたヤマクルマに比較される種 (*Spirostoma* cf. *japonicum* from Kaiduka City, Osaka Prefecture, Japan), KSMHN-M06681. A: 貝殻の全体像 (overall view of the shell); B: 蓋 (lid); C: 体層の拡大 (enlarged view of the body whorl); D: 生態写真 (ecological photography).

ら得られたことから、本種はこれらのいずれかの幼体である可能性が考えられる。このうちミヤコムシオイは本種の検討標本と同サイズの個体であれば虫様管を有することから明らかに異なる。ヤマタニシ、アツブタガイ、イノウエヤマトガイは螺塔が円錐形であることから本種と異なるのに対し、ヤマクルマは貝殻が円盤形で殻頂部の螺管は概ね本種の形態と一致する。2008 年 12 月から 2009 年 12 月にかけて鹿児島県で毎月行われたヤマクルマのモニタリング調査では、7 月に最小個体（殻径 3.8

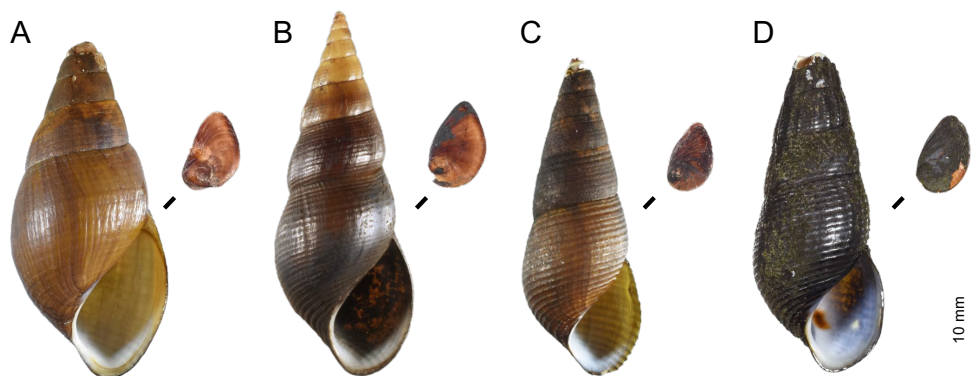


図 5. 大阪府泉州地域から得られたカワニナ類の標本 (Specimens of *Semisulcospira libertina* group from Senshu area, Osaka Prefecture, Japan). A: KSNHM-M05133-1, 泉南市 (Sennan City); B: KSNHM-M05405-1, 泉南郡岬町 (Misaki Town); C: KSNHM-M06045-1, 和泉市 (Izumi City); D: KSNHM-M06479-1, 和泉市 (Izumi City).

mm) が確認されており (松田・富山, 2022), その前後がヤマクルマの孵化時期に当たる可能性が高い. 本種の検討標本は 7-8 月にかけて得られたことから, このことは本種をヤマグルマの幼体とする説と一致する. 一方でヤマクルマの幼体の形態に関する知見は報告されておらず, 飼育下での繁殖による直接的な観察や DNA 分析による照合ができていないため, 本種とヤマクルマが別種である可能性も現段階では否定できない. 韓国の済州島からは本種と貝殻形態が類似する個体がノブエガイ属の一種 *Nobuea* sp. として報告されているが (Kimura and Noseworthy, 2020), これも本種と同様にヤマクルマまたはその近縁種である可能性が高い.

備考: 本種はこれまでに 2 個体が採集されたのみで, 1 個体目は落葉広葉樹のリターからソーティングによって得られ, 2 個体目は湿潤な倒木の裏に付着しているのを目視で発見した.

スクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* (Lamarck, 1822)

分類: 日本列島の一部の地域では本種と同属近縁種のラプラタリンゴガイ *P. maculata* Perry, 1810 の侵入が確認されている. ラプラタリンゴガイは本種との形態に基づく識別が難しいことに加えて交雑個体が確認されており (Matsukura *et al.*, 2008; 2013), 石田 (2020) および Ishida *et al.* (2020) では両種が区別されずに記録されている. その一方で本種とラプラタリンゴガイの判別マーカー (mtDNA の COI 領域および核 DNA の EF1 α 領域) を用いた分析では近畿地方からは本種に由来する DNA のみが検出されていることから (Matsukura *et al.*, 2008, 2013), 泉州地域の集団も本種に該当すると推定される.

カワニナ類 *Semisulcospira libertina* group (図 5)

分類: 日本列島に分布する河川型カワニナ種群 *S. libertina* species group (Davis (1969) の定義による) はカワニナ *S. libertina* (Gould, 1859), チリメンカワニナ *S. reiniana* (Brot, 1876) とそれらの多数の新参異名, クロダカワニナ *Semisulcospira kurodai* Kajiyama and Habe, 1961 が知られる. クロダカワニナは殻底肋数が少ないことなどから他の 2 種と形態的に区別される (増田・内山, 2004). カワニナとチリメンカワニナ (Miura *et al.* (2020) と同様にこれらをカワニナ類 *S. libertina* group と総称する) は主に成貝の縦肋の有無によって区別され別種として扱われていたが (増田・内山, 2004), 現在もこれらを巡る分類は解決していない. 日本列島に生息するカワニナ類は, 多遺伝子座のアロザイム分析によ

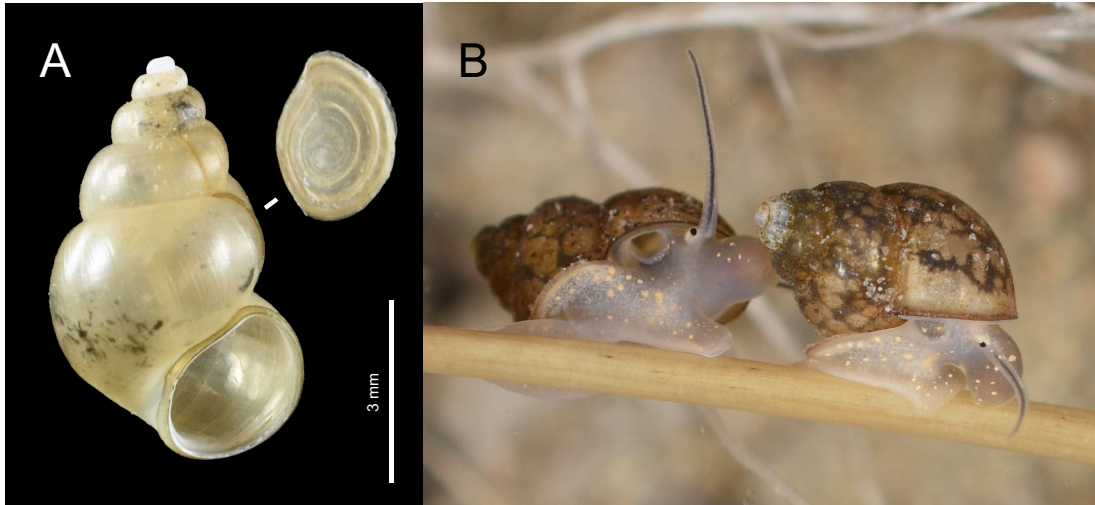


図 6. 大阪府泉南郡岬町から得られたヒメマルメタニシ (*Gabbia kiusiensis* from Misaki Town, Osaka Prefecture, Japan). A: 標本 (a specimen), KSNHM-M06509-1; B: 生態写真 (ecological photography).

り Mpi 遺伝子座の遺伝子型 (AA 型・BB 型) によって区別される 2 群の存在が知られている (Oniwa and Kimura, 1986a, b). これらは一部の地域で分布域を共有している一方で自然交雑がほとんどみられないことから、生殖的に隔離された別種と考えられており、暫定的に AA 型がカワニナ, BB 型がチリメンカワニナと同定されている (Oniwa and Kimura, 1986a, b; 浦部, 1992; 中野ほか, 1996; 神谷・島本, 2005). この 2 種は成貝の縦肋の出現頻度, 螺層数, 螺層角および殻底の螺肋数, 胎殻の最大殻高, 胚数に傾向的な差異があるものの, いずれの形質も変異の範囲が重複するため決定的な識別形質とはならず, 学名の十分な検討も行われていない (浦部, 1992; 中野ほか, 1996; 神谷・島本, 2005). その一方でゲノムワイドな SNPs データを用いた系統解析では日本列島に分布するカワニナ類は 95% 以上のブーツストラップ値によって支持される 3 系統 (L1, L2, L4) に分化しており, それぞれ別種の可能性が示唆される (Miura *et al.*, 2020). これらをまとめると, 日本列島には 2-3 種のカワニナ類が生息し, 関東地方以西では複数種の混生域があり一部では自然交雑が生じている. 現時点ではこれらを形態に基づいて識別することはできないが, 泉州地域に生息するカワニナ類は成貝の貝殻形態において縦肋が全く見られない集団, 顕著な縦肋が現れる個体が多数を占める集団がいることから複数種が含まれる可能性が高い.

ヒメマルメタニシ *Gabbia kiusiensis* (Hirase, 1927) (図 6)

検討標本: KSNHM-M06509-1, 泉南郡岬町多奈川谷川, 2022 年 8 月 14 日.

参考標本: KSNHM-M06509-2-8, 同上; KSNHM-M06729, 泉南郡岬町多奈川谷川, 2023 年 8 月 19 日.

記載: 殻長 6.6 mm, 殻径 4.1 mm, 螺層数 5.3. 貝殻は卵円錐形で右巻き. 螺塔は高く, 殻頂は丸い. 臍孔は狭く, 縫合は浅い. 殻表は淡い黄褐色で光沢がある. 蓋は卵円形で, 核は中心による. 頭触角は棒状で黒色を呈し, その根元に一對の目をもつ. 頭部から腹足にかけては半透明の白色を呈し, 黄色または赤橙色の斑点が散在する. 外套膜は白地に黒い網目模様がかかり, 貝殻の外側から透けて見える.

備考: 本種は水田および隣接する江から採集された. 生息密度は高いものの生息範囲は狭い. 本種は岐阜県以西の本州中部から九州にかけて分布しており (福田, 2020), 大阪府では初記録となる.

ミズコハクガイ *Gyraulus soritai* (Habe, 1976)

検討標本:KCMN-Mol098, 貝塚市馬場蓮池, 2016 年 12 月 4 日 (児嶋ほか (2020, fig. 3-6) の図示個体).
記載:殻長 0.72 mm, 殻径 2.10 mm, 殻口部を除く体層高 0.52 mm, 殻口高 0.62, 螺管の幅 0.97 mm, 螺層数 3.30. 貝殻はほぼ平坦な円盤状の左巻きで脆薄. 螺塔は深く窪み臍孔状の構造を呈し, 殻底は窪まず, 周縁部は丸い. 殻口はほぼ円形で反転しない. 殻表には繊細な成長脈が見られ, 光沢があり, 半透明の飴色を呈する.

分類:本種は他の *Gyraulus* Charpentier, 1837 とは大きく離れた系統で, 別属である可能性が高い (Saito *et al.*, 2018; 齊藤・福田, 2020).

備考:本種は 2016 年 12 月 4 日に貝塚市のため池周辺に堆積したヨシの枯葉の中から 1 個体が発見されて以降は泉州地域において再確認されていない. 本種は青森県から鹿児島県にかけての本州・四国・九州に分布する (齊藤・福田, 2020).

ホソアシヒダナメクジ科の一種 *Rathousiidae* gen. et sp.

備考:本種は田中 (2017, fig. 2-D) によって阪南市の山中溪から記録された. 田中 (2017) では本種は体長が約 40 mm, 体幅が約 10 mm とイボイボナメクジと比較して大型であることが報告されているが, その他の形態の記載はないため科の所属を含めた再検討が必要である.

ナラビヒダギセル *Megalophaedusa proba caryostoma* (Möllendorff, 1882)

分類:Motochin *et al.* (2017) により名義タイプ亜種のゼイギセル *M. proba proba* (A. Adams, 1868) の属名が変更されたため, それに合わせて本亜種の属名も *Megalophaedusa* Boettger, 1877 とした.

キイロナメクジ *Limacus cf. flavus* (Linnaeus, 1758)

分類:*L. flavus* (Linnaeus, 1758) は同属の *L. maculatus* (Kaleniczenko, 1851) と生殖器の形態によって区別されるものの, 交雑が生じている可能性が示唆されている (Rowson *et al.* 2014). また両種が生息するヨーロッパでは, *L. maculatus* の記録頻度の増加に伴う *L. flavus* の減少が報告されている (Rowson *et al.* 2014). 日本国内から記録されているキイロナメクジは慣習的に *L. flavus* と同定されているが, 由来となった集団が明らかでなく同定根拠も曖昧なため, 本報告では *L. flavus* を不確定な学名として扱った.

アジアベッコウ *Macrochlamys indica* Godwin-Austen, 1883 (図 7)

検討標本:KSNHM-M06577, 堺市, 2022 年 9 月 19 日.

記載:殻長 11.3 mm, 殻径 20.2 mm. 貝殻は右巻きで脆薄. 螺塔は低い円錐形で, 臍孔は 1/3 程度が軸唇に覆われ, 周縁部は丸く弧を描く. 螺管は成長とともに徐々に太くなり, 縫合は浅く縊れる. 殻口は半月形で, 外唇および軸唇は反転しない. 殻表は繊細な成長脈と螺条が見られ, 光沢は強く, ベージュ色を呈する. 頭触角は棒状で先端に目があり, 黒色を呈する. 頭部から腹足は黒色を呈し, 尾角は短い角状に尖る. 殻口の上縁と周縁からは細長い外套膜が貝殻に沿って伸長する. 生殖器官には牽引筋をもつ矢囊および細長い鞭状器と螺旋状に巻く陰茎付属肢をもつ.

分類:オオベッコウ属 *Macrochlamys* Gray, 1847 はベッコウマイマイ科の中では大型のグループで, 生殖器の形態における牽引筋をもつ長い矢囊, 長い鞭状器, 著しく長く螺旋状に巻く陰茎付属肢が本属の標徴とされる (Schileyko, 2003; 早瀬ほか, 2009; 上島, 2009). 本属には 120 を超える種・亜種・型が報告されており形態に基づく同定は難しいと考えられているが (Schileyko, 2003; 早瀬ほか, 2009; 上島, 2009), mtDNA の COI 領域を対象とした系統解析およびバングラデシュ産の個体との形

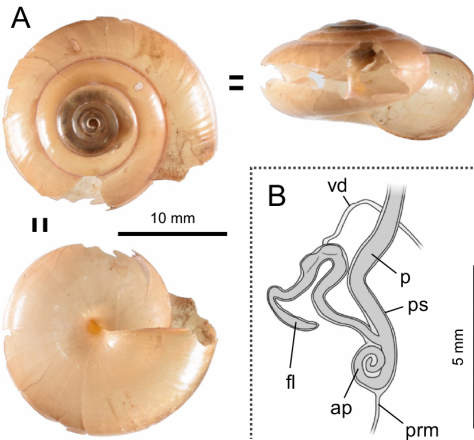


図7. 大阪府堺市から得られたアジアベッコウ (*Macrochlamys indica* from Sakai City, Osaka Prefecture, Japan). KSNHM-M06577. A: 標本 (a specimen); B: 雄性生殖器のスケッチ (sketch of the male genitalia). ap: 陰茎付属肢 (appendix of the penis); fl: 鞭状器 (flagellum); p: 陰茎 (penis); prm: 陰茎牽引筋 (penial retractor muscle); ps: 陰茎鞘 (penial sheath); vd: 輸精管 (vas deferens).

態比較により日本国内から記録されている本属は全て *M. indica* と同定された (Kudo *et al.*, 2022). 泉州地域で発見された個体も国内の他地域から報告されているアジアベッコウと形態的な相違が見られないことから、本種に同定した。

備考: 本種は造園会社の敷地内において生体として発見され著者に提供された。当地周辺では提供者 (匿名) によって継続的にモニタリングされているもののその後は確認されておらず、一時的な侵入後に根絶したものと考えられる。検討標本の破損は輸送時に生じたものである。本種は日本国内において小笠原諸島、愛知県豊橋市、琉球列島での侵入が確認されており (Kudo *et al.*, 2022), 泉州地域では初記録 (本州2例目) となる。

オオベソマイマイ属の一種 *Aegista* sp. (図8)

検討標本: KSNHM-M06796, 岸和田市塔原町, 和泉葛城山, 2023年10月15日。

記載: 殻長 10.9 mm, 殻径 17.2 mm, 螺層数 6.0。貝殻は右巻き。螺塔は低いドーム型で、臍孔は広く、周縁部は丸い。螺管は成長とともに徐々に太くなり、背面の縫合は浅く、腹面の縫合は深く縊れる。殻口は円形で、外唇は反転し、白色の滑層が形成される。殻表は平滑で繊細な成長脈が見られ、鱗片状突起を欠き、光沢は鈍く、黄茶褐色を呈する。頭触角は棒状で先端に目があり、黒色を呈する。頭部から腹足は茶褐色を呈する。

分類: 本種は泉州地域に分布するオオベソマイマイ属 *Aegista* Albers, 1850 の中ではフチマルオオベソマイマイ *Aegista tumida tumida* (Gude, 1901) に似るが、より大型である点 (vs. フチマルオオベソマイマイは最大殻径 15.4 mm), 殻径に対して螺層数が少ない点 (フチマルオオベソマイマイの螺層数は 6.0-6.4 で、本種がその老成個体であればより大きい螺層数を示す) で異なるため (東, 1982), 別種と考えられる。その他、紀伊半島南部に分布するキイオオベソマイマイ *Aegista tumida cavata* (Pilsbry, 1902) や岡山県北部に分布するハタケダマイマイ *A. hatakedai* (Kuroda and Habe, 1951) などの貝殻形態が類似する種が複数挙げられ (東, 1982), 同定には未記載種である可能性を含めた検討が必要であると考えられる。

備考: 本種は針葉樹と落葉広葉樹からなる落葉の下から発見された。これまでに見つかったのは1個体のみで、高い希少性が示唆される。

ヌノメニッポンマイマイ *Satsuma granulosa* (Pilsbry, 1902) (図9-A, B)

検討標本: KSNHM-M06795, 岸和田市尾生町, 神於山, 2023年10月15日。

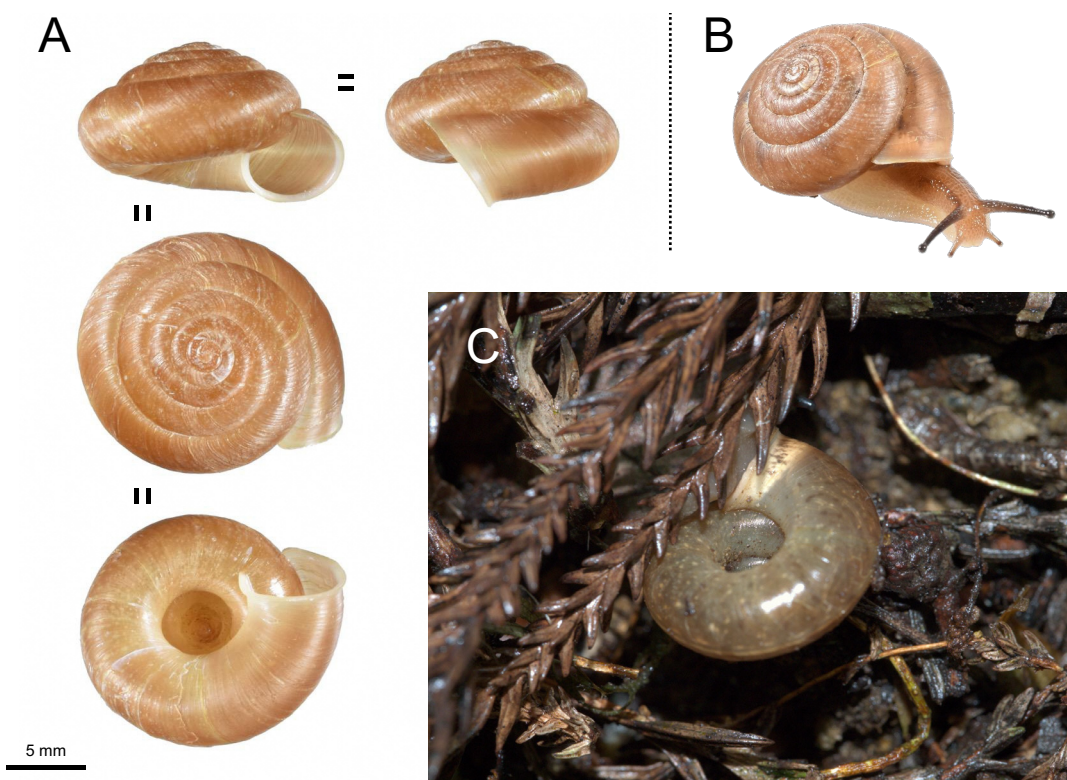


図 8. 大阪府岸和田市和泉葛城山から得られたオオベソマイマイ属の一種 (*Aegista* sp. from Mt. Izumikatsuragi, Kishiwada City, Osaka Prefecture, Japan), KSNHM-M06796. A: 標本 (a specimen); B: 生体写真 (life photograph); C: 生態写真 (ecological photograph by H. Oka).

参考標本: KSNHM-M06618, 岸和田市塔原町, 和泉葛城山, 2022 年 5 月 14 日; KSNHM-M06721, 阪南市山中溪, 2023 年 8 月 17 日.

記載: 殻長 15.2 mm, 殻径 19.8 mm, 螺層数 6.2. 貝殻は右巻きで脆薄. 螺塔は低く丸みのある円錐形で, 臍孔は 1/3 程度が軸唇に覆われ, 周縁部は角張る. 螺管は成長とともに徐々に太くなり, 縫合は浅く縊れる. 殻口は外縁が下降し, 外唇および軸唇は反転し, 赤みを帯びた滑層が形成され, 底唇に弱い滑層瘤がある. 殻表は繊細な成長脈が見られ, 微小な顆粒が不規則に密集し, 光沢は鈍く, 茶褐色を呈する. 周縁に不明瞭な褐色の色帯があり, その下に淡色の色帯が平行に走る. 頭触角は棒状で先端に目があり, 黒色を呈する. 頭部から腹足側面は黒色, 腹足裏側は周縁部が灰色で中心部が乳白色を呈する.

分類: 本種は Pilsbry (1902) によってニッポンマイマイ *Satsuma japonica* (Pfeiffer, 1847) の変種として記載された後, 一般的にはその亜種として扱われている (例えば東, 1982). しかし本種は分布域の大部分がニッポンマイマイと重複するにも関わらず, 後者とは複数の大きく異なる形態 [例えば, 殻表に微細な顆粒がある点 (vs. ニッポンマイマイは顆粒を欠く), 腹面から臍孔が見える点 (vs. ニッポンマイマイは軸唇に覆われて臍孔が隠れる) など] をもつことから別種と考えられる. 渡部 (1955, fig. 18), 児嶋 (2017, text-fig., 2019), 田中 (2017, fig. 3-B) によってそれぞれムロマイマイ *S. peculiaris* (Adams, 1868), シメクチマイマイ *S. ferruginea* (Pilsbry, 1900), ニッポンマイマイ *S. (Satsuma) japonica* (Pfeiffer, 1847) として記録されたものは, 図示および記載ともに本種の特徴と一致するため本種の記録として扱った.

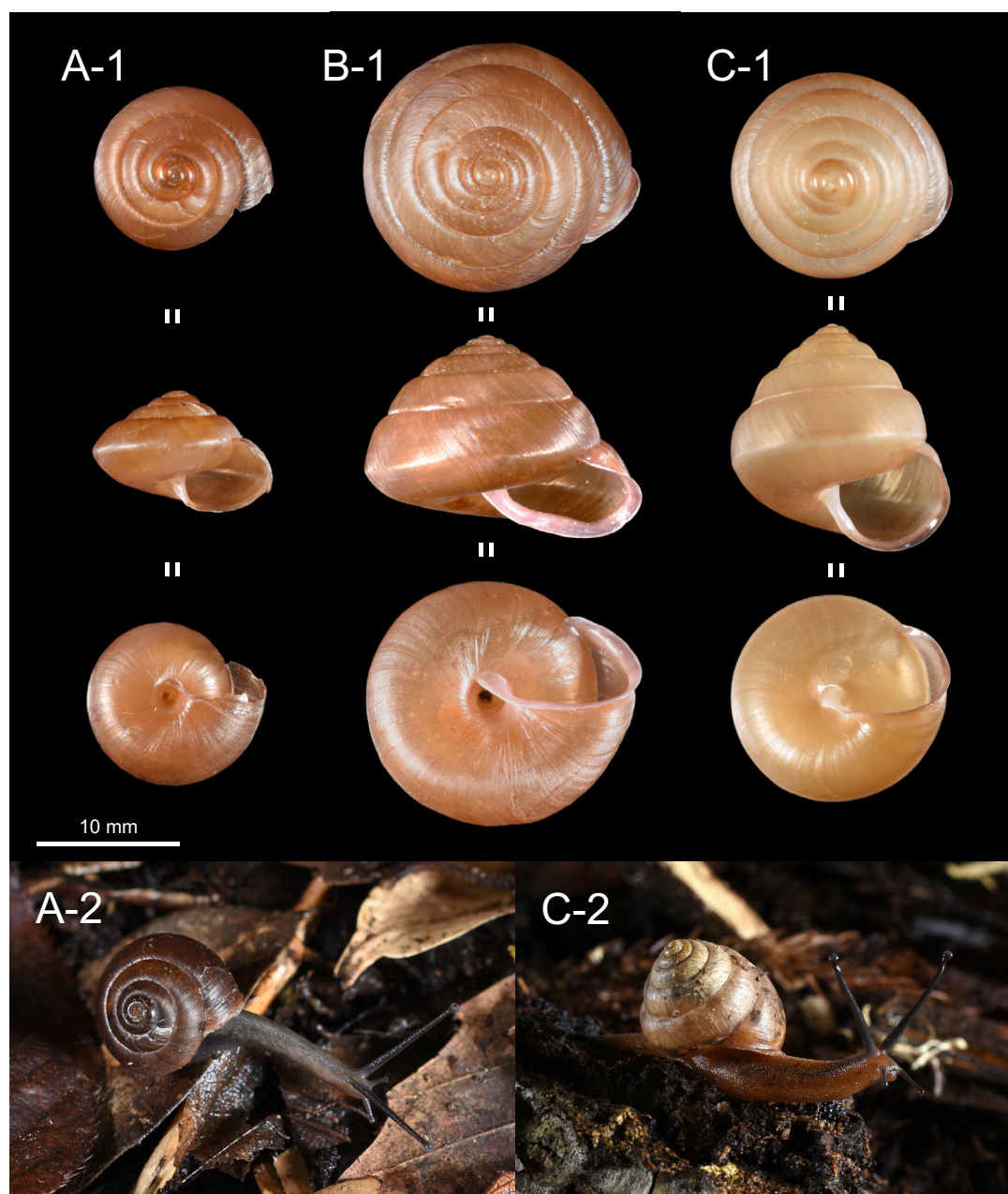


図 9. 大阪府泉州地域から得られたニッポンマイマイ属 (*Satsuma* from Senshu area, Osaka Prefecture, Japan). A : ヌノメニッポンマイマイ *S. granulosa*, KSNHM-M06618, 阪南市 (Hannan City) ; B : ヌノメニッポンマイマイ *S. granulosa*, KSNHM-M06795, 岸和田市 (Kishiwada City) ; C : ニッポンマイマイ *S. japonica*, KSNHM-M06750, 岸和田市 (Kishiwada City) . 1 : 標本 (specimens) ; 2 : 生態写真 (ecological photography) .

ニッポンマイマイ *Satsuma japonica* (Pfeiffer, 1847) (図 9-C)

検討標本：KSNHM-M06750, 岸和田市土生滝町, 意賀美神社, 2023 年 10 月 15 日.

参考標本：KSNHM-M06691, 06692, 岸和田市塔原町, 2023 年 7 月 14 日; KSNHM-M06751, 岸和田市土生滝町, 意賀美神社, 2023 年 10 月 15 日.

記載：殻長 16.2 mm, 殻径 15.5 mm, 螺層数 6.0. 貝殻は右巻きで脆薄. 螺塔は低く丸みのある円錐形. 臍孔は開いてはいるものの, 真下から見ると軸唇によって完全に隠れる. 周縁部はわずかに角張る. 螺管は成長とともに徐々に太くなり, 縫合は顕著に縊れる. 殻口は外縁が丸く弧を描き, 外唇および軸唇は反転し, 白い滑層が形成され, 軸唇に弱い滑層瘤がある. 殻表は平滑で繊細な成長脈が見られ, 光沢は鈍く, 黄褐色を呈する. 周縁に不明瞭な茶褐色の色帯があり, その下に白色の色帯が平行に走る. 頭触角は棒状で先端に目があり, 黒色を呈する. 頭部から腹足は茶褐色の地に黒色の斑紋がみられる.

分類：複数の亜種(変種)を含めた広義のニッポンマイマイは集団間の地理的変異が認められ(上島ほか, 2001), それらが種間の差異に相当するのかが表現型の可塑性によるものかは定かでないものの, mtDNA を対象とした系統解析では高い遺伝的多様性から複数種が含まれる可能性が示唆されている(川瀬ほか, 2021). これらは亜種間または系統間で分布域に重複がみられ, 同属のシメクチマイマイとアキラマイマイ *S. akiratadai* Kameda and Fukuda, 2015 で確認されているように mtDNA と核 DNA の系統の不一致が生じている可能性がある(Kameda and Fukuda, 2015). したがって広義のニッポンマイマイにおける種多様性の把握と各タクソンの学名の決定を行うには形態, mtDNA, 核 DNA を対象とした包括的な分類学的検討が必要であると考えられる. 泉州地域では狭義のニッポンマイマイ, ムロマイマイ *S. j. peculiaris* (Adams, 1868), マルニッポンマイマイ *S. j. satsuma* (Pilsbry, 1900) が記録されているが, 前述の理由からこれらの分類学的位置づけは定かでない. そのため本報告では従来の分類に基づく各文献の同定結果に従ってそれぞれを別タクソンとして扱った. ただしヌノメマイマイの項で言及した文献記録についてはその限りでない.

謝 辞

本報告をまとめるにあたり, 文献の情報や標本などをご提供いただいた風間美穂氏(きしわだ自然資料館), 野外調査にご協力いただいた淡路健斗氏(元近畿大学), 岡準斗氏(近畿大学), 藤田衛氏(元近畿大学大学院), 納谷颯汰氏(元近畿大学), きしわだ自然資料館の博物館実習生各位, 原稿の一部にご助言いただいた山田充哉氏(水産研究・教育機構水産技術研究所)に感謝申し上げます. 本研究は, 公益財団法人自然保護助成基金第 34 期(2023 年度)プロ・ナトゥーラ・ファンド助成を受けたものである.

引用文献

- 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. xv+333 pp. 保育社, 大阪.
- 東 正雄, 1966. 大阪府の陸貝(採集案内). (大阪自然科学研究会編). 大阪の自然. pp. 100-103. 六月社, 大阪.
- 東 正雄, 1971. 京阪神の動物(増補). 198 pp. 六月社, 大阪.
- 東 正雄・波部忠重, 1939. 大阪府陸産貝類誌 I キセルガイ科. 博物, 1: 1-24+pls. 1-2.
- 東 正雄・波部忠重, 1940. 大阪府陸産貝類誌 II マイマイ超科. 博物, 2: 1-36+pls. 1-3.
- 馬場雄司・上地健琉, 印刷中. 大阪府におけるヒメヒラマキミズマイマイの記録および本種の標徴の再評価. *Molluscan Diversity*, 7.
- Cole, M. L., 2019. Revision of *Chondrocyclus* s.l. (Mollusca: Cyclophoridae), with description of a new genus and twelve new species. *European Journal of Taxonomy*, 569: 1-92.
- 福田 宏, 2020. ヒメマルマメタニシ. (岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県版レッドデータブック 2020 動物編. p. 385. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 福田 宏, 2021. Biology and Evolution of the Mollusca で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応. *Molluscan Diversity*, 6: 89-180.
- 福原修一・田部雅昭・近藤高貴・河村章人, 1994. 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的 2 型の繁殖期. 貝類学雑誌, 53: 37-42.
- Graf, D. and Cummings, K., 2024. The MUSSEL Project. <http://www.mussel-project.net/>
- Haas, F., 1910. New Unionidae from East Asia. *Annals and Magazine of Natural History*, 6: 496-499.
- 波部忠重, 1939. 大阪府の煙管貝 Clausiliidae に就いて. 吉田博士祝賀記念誌, 681-688.
- 波部忠重, 1961. 続原色日本貝類図鑑. 182 pp.+46 app. 保育社, 大阪.

- 長谷川匡弘・石田 惣・松井彰子・松本吏樹郎・長田庸平・初宿成彦・植村修二・和田 岳, 2022. 大阪府外来生物目録. 自然誌研究, 4: 117–156.
- Hedtko, S. M., Stanger-Hall, K., Baker, R. J., and Hillis, D. M., 2008. All-male asexuality: origin and maintenance of androgenesis in the Asian clam *Corbicula*. *Evolution*, 62: 1119–1136.
- Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K., and Chiba, S., 2014. Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobuliminus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 70: 171–181.
- Hirano, T., Saito, T., and Chiba, S., 2015. Phylogeny of freshwater viviparid snails in Japan. *Journal of Molluscan Studies*, 81: 435–441.
- 平瀬与一郎, 1908. 日本陸産貝類圖説 (十五). 介類雑誌, 2: 288–292.
- Houki, S., Yamada, M., Honda, T., and Komaru, A., 2011. Origin and possible role of males in hermaphroditic androgenetic *Corbicula* clams. *Zoological science*, 28: 526–531.
- Huber, M., 2015. Compendium of Bivalves 2. A full-color guide to the remaining seven families. A systematic listing of 8'500 bivalve species and 10'500 synonyms. 907 pp. ConchBooks, Harxheim.
- Ishida S., 2020. Distribution records of apple snails (*Pomacea* spp.) in Japan collected during 2017–2019 through a citizen science project for introduced species conducted by the Osaka Museum of Natural History. *Ecological Research*, 35(6): 1114–1118.
- 石田 惣, 2020a. 外来生物調査プロジェクト Project A 「スクミリンゴガイの分布調査」の結果報告. *Nature Study*, 66: 59–61.
- 石田 惣, 2020b. 市民科学による大阪府のオオクビレガイの生息調査, 並びに分布の現況. *Venus*, 78: 105–118.
- 石田 惣, 2022. ネットからの報告でさぐるオオクビレガイの密度と行動. *Nature Study*, 68: 11.
- Ito, S., Yamazaki, D., Kameda, Y., Kagawa, O., Ye, B., Saito, T., Kimura, K., Do, V. T., Chiba, S., and Hirano, T., 2023. Taxonomic insights and evolutionary history in East Asian terrestrial slugs of the genus *Meghimatium*. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 182, 107730.
- 岩崎 拓, 2013. ふたのあるカタツムリ. 自然遊学館だより, (67): 3–5.
- 岩崎 拓・山田浩二, 2010. 見出川の水生生物 (2008 年度調査). 貝塚の自然, (12): 1–9.
- 岩崎 拓・山田浩二, 2012. 見出川の水生生物 (2010 年度調査). 貝塚の自然, (14): 27–36.
- 貝塚市立自然遊学館 (編), 1999. 近木川流域の動植物. 30 pp. 第 23 回全国育樹祭大阪府実行委員会, 大阪.
- 神谷敏詩・島本昌憲, 2005. 日本産カワナオおよびチリメンカワナオの遺伝的変異と形態変異. *Venus*, 64: 161–176.
- 環境省・農林水産省, 2015. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト <動物>. 18pp. 環境省・農林水産省, オンライン. <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), 2020. 環境省レッドリスト 2020. 131 pp. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, オンライン. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>
- Kano, Y., Kurita, Y., Kanno, K., Saito, K., Hayashi, H., Onikura, N., and Yamasaki, T., 2019. Photo images, 3D/CT data and mtDNA of the freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) in the Kyushu and Ryukyu Islands, Japan, with SEM/EDS analysis of the shell. *Biodiversity Data Journal*, 7, e32114.
- 柏尾 翔・上地健琉・児嶋 格・大古場 正, 2022. 岸和田市における外来種オオクビレガイの分布状況 (予報). きしわだ自然資料館研究報告, (7): 29–34.
- 柏尾 翔・児嶋 格・大古場 正・石田 惣, 2017. 大阪府下で見つかった外来種オオクビレガイ. *Melange*, 72: 17–20.
- 川瀬基弘・横山悠理・西尾和久・松原美恵子・横井敦史・熊澤慶伯, 2021. 名古屋市に棲息するニッポンマイマイ *Satsuma japonica* の COI 遺伝子からみた分子系統学的位置付け. なごやの生物多様性, 8: 127–132.
- 川瀬基弘・横山悠理・横井敦史・熊澤慶伯, 2023. 名古屋市に棲息する *Cristarini* カラスガイ族 (ドブガイ類) の種多様性. なごやの生物多様性, 10: 125–133.
- 岸和田市教育委員会・岸和田市教育研究所, 1990. 岸和田市の溜池自然環境調査. 岸教研刊行集 No. 848. 83 pp. 岸和田市教育研究所, 大阪.
- Kimura, K. and Noseworthy, R., 2020. First record of the little-known land gastropod genus *Nobuea* Kuroda et Miyana, 1943 (Gastropoda: Diplommatinidae) from Jeju Island, South Korea. *Biodiversity Journal*, 11: 289–292.
- 児嶋 格, 2010. 貝塚市水間周辺の貝類. 自然遊学館だより, (56): 16–66.
- 児嶋 格, 2013. 和泉葛城山の陸産貝の観察記録. 自然遊学館だより, (66): 1–3.
- 児嶋 格, 2017. 貝塚市のカタツムリー貝塚市に住む陸産貝類ー. 16 pp. 貝塚市立自然遊学館, 大阪.
- 児嶋 格, 2019. ほの字の里で見つかったカタツムリ (陸産貝) の仲間. 自然遊学館だより, (91): 1–4.
- 児嶋 格, 2023. 水間寺周辺の陸産貝調べ. 自然遊学館だより, (105): 5–7.
- 児嶋 格・和田太一・山田浩二, 2020. 貝塚市の淡水貝調査. 貝塚の自然, (21): 55–61.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一, 2006. ドブガイに見られる遺伝的 2 型のグロキディウム幼生の形態. *Venus*, 65: 241–245.
- Kondo, T., 2008. Monograph of Unionoida in Japan (Mollusca: Bivalvia). *Special Publication of the Malacological Society of Japan*, 3. 69 pp.
- Kondo, T., 2023. The identity of *Pronodularia japonensis* (Lea, 1859) (Bivalvia: Unionidae) and estimation of its type locality. *Venus*, 81: 39–46.
- Kudo, K., Kagawa, O., Ito, S., Wada, S., Nishi, H., Shariar, S.M., Yamazaki, D., Hirano, T., and Chiba, S., 2022. Species identification and invasion pathways of an introduced snail *Macrochlamys* sp. in Japan. *BioInvasions Records*, 11, 839–854.
- 黒田徳米・東 正雄, 1982. 日本産陸産貝類 3 新種 1 新亜種. *Venus*, 41: 10–19.
- Lopes-Lima, M., Hattori, A., Kondo, T., Lee, J. H., Kim, S. K., Shirai, A., Hayashi, H., Usui, T., Sakuma, K., Toriya, T., Sunamura, Y., Ishikawa, H., Hoshino, N., Kusano, Y., Kumaki, H., Utsugi, Y., Yabe, S., Yoshinari, Y., Hiruma, H., Tanaka, A., Sao, K., Ueda, T., Sano, I., Miyazaki, J.-I., Gonçalves, D. V., Klishko, O. K., Konopleva, E. S., Vikhrev, I. V., Kondakov, A. V., Gofarov, M. Y., Bolotov, I. N., Sayenko, E. M., Soroka, M., Zieritz, A., Bogan, A. E., and Froufe, E., 2020. Freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) from the rising sun (Far East Asia): phylogeny, systematics, and distribution. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 146: 106755.
- Mabuchi, K. and Nishida, K., 2020. A DNA mini-barcoding system for endangered unionid mussels in the Lake Biwa system in Japan. *Conserv*

Genet Resour, 12: 581–584.

- Mabuchi, K., Nishida, K., and Nakajima, N., 2021. Complete female-transmitted mitochondrial genomes of two freshwater mussels from the Lake Biwa system in Japan: *Nodularia douglasiae* and *N. nipponensis*. *Mitochondrial DNA Part B*, 6: 1536–1538.
- 前田和俊・太田秀・鹿野康裕・上島励, 1987. 横須賀市自然博物館所蔵平瀬貝類標本目録 (II), 陸産貝類 (2), 前鰓亜綱 有肺亜綱 (オナジマイマイ科を除く). 横須賀市博物館資料集, 11: 1–48, 69–71+pls. 1–20.
- 増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240 pp. ピーシーズ, 東京.
- 松田銀斗・富山清升, 2022. 鹿児島市におけるヤマクルマガイ (腹足綱: ヤマトニシ科) の生活史. *Nature of Kagoshima*, 48: 233–237.
- Matsukura, K., Okuda, M., Cazzaniga, N.J., and Wada, T., 2013. Genetic exchange between two freshwater apple snails, *Pomacea canaliculata* and *Pomacea maculata* invading East and Southeast Asia. *Biological Invasions*, 15: 2039–2048.
- Matsukura, K., Okuda, M., Kubota, K., and Wada, T., 2008. Genetic divergence of the genus *Pomacea* (Gastropoda: Ampullariidae) distributed in Japan, and a simple molecular method to distinguish *P. canaliculata* and *P. insularum*. *Applied Entomology and Zoology*, 43: 535–540.
- 松村 勲, 1982. 河内長野市を中心とした大阪府南部の陸産貝類. かいなこま, 16(1): 13–16.
- 松村 勲, 2001. 大阪府陸産貝類誌. 294 pp. 近未来社, 愛知.
- 松村 勲, 2003. 貝塚市の陸産貝類. 貝塚の自然 - 貝塚市立自然遊学館創館 10 周年記念号 -. pp. 158–174. 貝塚市立自然遊学館, 大阪.
- 湊 宏, 1975. イノウエヤマトガイーその研究経過・形態・分布. 南紀生物, 7(2): 40–41.
- 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 212 pp. + tables 1–6 + pls 1–74. 貝類額雑誌 [別巻 2].
- Miura, O., Urabe, M., Mori, H., and Chiba, S., 2020. Ancient drainage networks mediated a large-scale genetic introgression in the East Asian freshwater snails. *Ecology and Evolution*, 10: 8186–8196.
- Motochin, R., Wang, M., and Ueshima, R., 2017. Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoological Journal of the Linnean Society*, 181: 795–845.
- 中野大三郎・和田克彦・伊澤邦彦, 1996. 三重県伊賀地方でみられるカワニナとチリメンカワニナの酵素多型と雑種型個体. *Venus*, 55: 243–254.
- 納谷颯汰, 2023. 大阪府堺市におけるヒロマキミズマイマイの記録. *Nature Study*, 69: 120–121.
- 西出康介, 2018. 脇浜淡水真珠養殖について. 自然遊学館だより, (87): 2–3.
- 西 浩孝, 2022. 高桑弘氏寄贈貝類目録 2. 腹足綱 (第 13 分冊) イトカケマイマイ科 - カドバリコマイマイ科, 3. 多板綱, 4. 溝腹綱, 5. 掘足綱, 6. 頭足綱. 豊橋市自然史博物館資料集, (28): 1–110.
- 西山綺音, 2021. 泉大津市で確認されたヒロマキミズマイマイ. *Melange*, 90: 21–22.
- Okamoto, A. and Arimoto, B., 1986. Chromosomes of *Corbicula japonica*, *C. sandai* and *C. (Corbiculina) leana* (Bivalvia: Corbiculidae). *Venus*, 45: 194–202.
- 大古場 正, 2017. 大阪府のカスガコギセル〜その産地と現状. *Nature Study*, 63: 3–4.
- Oniwa, K. and Kimura, M., 1986a. Genetic variability and relationships in six snail species of the genus *Semisulcospira*. *The Japanese Journal of Genetics*, 61, 503–514.
- Oniwa, K. and Kimura, M., 1986b. Genetic variability in two snail species *Semisulcospira libertina* and *Semisulcospira reiniana*. *The Japanese Journal of Genetics*, 61, 137–146.
- 大阪府環境農林水産部緑の環境整備室, 2000a. 大阪府野生生物目録. 351 pp. 大阪府環境農林水産部緑の環境整備室, 大阪.
- 大阪府環境農林水産部緑の環境整備室, 2000b. 大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—. 442 pp. 大阪府環境農林水産部緑の環境整備室, 大阪.
- Pilsbry, H. A., 1902. New land mollusks of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 53: 562–67.
- Qiu, A.D., Shi, A.J., and Komaru, A., 2001. Yellow and brown shell color morphs of *Corbicula fluminea* (Bivalvia: Corbiculidae) from Sichuan Province, China, are triploids and tetraploids. *Journal of Shellfish Research*, 20: 323–328.
- 酒井治己・高橋俊雄・古丸 明, 2014. 日本産マシジミおよび外来タイワンシジミ類のアロザイム変異と淡水シジミ類の多様性. *Venus*, 72: 109–121.
- 堺市環境局環境保全部環境共生課, 2008. 堺市の保護上重要な野生生物 堺市レッドリスト. 43 pp. 堺市環境局環境共生部環境共生課, 大阪.
- 堺市環境局環境保全部環境共生課, 2021a. 堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物 —堺市レッドリスト 2021・堺市外来種アラートリスト 2021—. 30 pp. 堺市環境局環境共生部環境共生課, 大阪.
- 堺市環境局環境保全部環境共生課, 2021b. 堺市野生生物目録 2021 年 3 月版. 堺市, オンライン: https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/gomi/kankyo_hozen/seibutsutayousei/redlist.files/2021mokuroku.pdf.
- Sano, I., Saito, T., Ito, S., Ye, B., Uechi, T., Seo, T., Do, V.T., Kimura, K., Hirano, T., Yamazaki, D., Shirai, A., Kondo, T., Miura, O., Miyazaki, J.-I., and Chiba, S., 2022. Resolving species-level diversity of *Beringiana* and *Sinanodonta* mussels (Bivalvia: Unionidae) in the Japanese archipelago using genome-wide data. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 175: 107563.
- Sano, I., Saito, T., Miyazaki, J. I., Shirai, A., Uechi, T., Kondo, T., Chiba, S., 2020. Evolutionary history and diversity of unionoid mussels (Mollusca: Bivalvia) in the Japanese Archipelago. *Plankton and Benthos Research*, 15: 97–111.
- Sano, I., Shirai, A., Kondo, T., Miyazaki, J. I., 2017. Phylogenetic relationships of Japanese Unionoida (Mollusca: Bivalvia) based on mitochondrial 16S rDNA sequences. *Journal of Water Resource and Protection*, 9: 493–509.
- 齊藤 匠・福田 宏, 2020. ミズコハクガイ. (岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県版レッドデータブック 2020 動物編. p. 474. 岡山県環境文化自然環境課, 岡山.
- 澤田直人, 2021. 大阪府の大泉緑地で新たに発見されたスナガイ. かいなこま, 55: 21–23.
- 瀬尾友樹・福田 宏・近藤高貴, 2020. マシジミ. (岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県版レッドデータブック 2020

- 動物編 . p. 647. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 瀬尾友樹・上地健琉・福田 宏・近藤高貴, 2020. ヌマガイ. (岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県版レッドデータブック 2020 動物編 . p. 564. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 芝本貞太郎, 1968. 牛滝・葛城・犬鳴の自然と人文. 159 pp. 日本辞書, 大阪.
- 隅谷和樹・山内崇敬・覚野信行, 2010. 泉南地域北部におけるスクミリンゴガイ (*Pomacea canaliculata*) の分布調査. *Melange*, 40: 12–13.
- 田部雅昭・福原修一・長田芳和, 1994. 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的 2 型. 貝類学雑誌, 53: 29–35.
- 田口圭介・古賀清美・但馬由美・中川美智代・山口直喜・佐々木 仁, 1999. 近木川の底生動物と水辺環境. 大阪府公害監視センター所報, (19): 79–92.
- 田中博美, 2017. 阪南市山中溪付近の陸産貝類相. かいなかま, 51(1): 15–23.
- 高倉耕一, 2008. 大阪およびその周辺地域に優占する外来巻貝ハブタエモノアラガイ *Lymnaea columella* (Say) とその自家受精による繁殖能力. 大阪市立環境科学研究所研究報告, 70: 43–51.
- 上地健琉, 2020a. 岸和田市におけるマツカサガイの標本記録. きしわだ自然資料館研究報告, (6): 37–40.
- 上地健琉, 2021. 岸和田市の埋立地における外来種サナギモドキ属の一種 *Pupoides* sp. の記録. *Melange*, 88: 5–6.
- 上地健琉, 2020b. 岸和田城百間堀の水抜き調査で確認された淡水産無脊椎動物. *Melange*, 86: 18–21.
- 上地健琉・藤田 衛・馬場雄司, 2022a. 大阪府におけるナタネキバサナギの記録および本種の生活史に関する知見. きしわだ自然資料館研究報告, (7): 21–27.
- 上地健琉・柏尾 翔, 2020. きしわだ自然資料館軟体動物類収蔵目録: 日本産淡水貝類 (腹足綱・二枚貝綱). きしわだ自然資料館研究報告, (6): 41–51.
- 上地健琉・柏尾 翔・児嶋 格・平野尚浩, 2023. 岸和田市阪南港における陸・淡水棲軟体動物相. きしわだ自然資料館研究報告, (8): 1–22.
- 上地健琉・西山綺音・阿部晟大・大古場 正, 2020. 大阪府におけるコハクオナジマイマイの記録. ちりばたん, 50(1): 149–154.
- 上地健琉・大古場 正・柏尾 翔・児嶋 格・馬場雄司, 2022b. 大阪府におけるモノアラガイの生息状況および標本・文献に基づく記録. きしわだ自然資料館研究報告, (7): 13–20.
- 植野俊郎, 2007. 大津川水系 (横尾川) 河川調査. *Melange*, 26: 19–21.
- 上島 励・齋藤 寛・長谷川和範, 2001. 自然教育園の陸産・淡水産貝類. 自然教育園報告, (33): 167–172.
- 浦部美佐子, 1992. 同一河川におけるカワニナ 2 種の判別と形態比較. *Venus*, 50: 270–286.
- Vastrade, M., Etoundi, E., Bournonville, T., Colinet, M., Debertoli, N., Hedtke, S. M., Nicolas, E., Pigneur, L.-M., Virgo, J., Flot, J.-F., Marescaux, J., and Van Doninck, K., 2022. Substantial genetic mixing among sexual and androgenetic lineages within the clam genus *Corbicula*. *Peer Community Journal*, 2: e73.
- 和田太一・山田浩二, 2015. 貝塚市の人工島のカタツムリ. 自然遊学館だより, (75): 1–3.
- 渡部一晃, 1955. 生物クラブ誌 vol. 3. 12 pp. 大阪府泉佐野高等学校生物部, 大阪.
- 矢田敏晃, 1997. 淡水真珠養殖. 大阪府漁業史. (大阪府漁業史編さん協議会編). pp. 893–894. 大阪府漁業史編さん協議会, 大阪.
- 山田浩二, 2019a. 和泉葛城山の陸産貝調べ. 自然遊学館だより, (91): 8–9.
- 山田浩二 (編), 2019b. 近木川干潟再生地 (汽水ワンド) の生きものたち ver.3. 12 pp. 貝塚市立自然遊学館, 大阪.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2002. 貝塚市内のため池の水生動物調査 I. 貝塚の自然, (4): 18–27.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2003. 貝塚市内のため池の水生動物調査 II. 貝塚の自然, (5): 31–53.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2003. 近木川周辺の水生動物. 貝塚の自然, (5): 54–57.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2004. 貝塚市内のため池の水生動物調査 III. 貝塚の自然, (6): 1–10.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2005. 近木川の水生動物. 貝塚の自然, (7): 27–30.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2006. 近木川の水生動物 II. 貝塚の自然, (8): 19–23.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2008. 近木川および津田川の水生動物 (河口域). 貝塚の自然, (10): 17–23.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2009. 近木川の水生生物 (2007 年度調査). 貝塚の自然, (11): 88–92.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2010. 近木川の水生生物 (2008 年度調査). 貝塚の自然, (12): 10–16.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2011. 近木川の水生生物 (2009 年度調査). 貝塚の自然, (13): 1–7.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2012. 近木川の水生生物 (2010 年度調査). 貝塚の自然, (14): 20–26.
- 山田浩二・岩崎 拓・児嶋 格・寺田拓真・和田太一, 2020b. 近木川干潟再生地の経過観察 (2017 年度). 貝塚の自然, (21): 1–29.
- 山田浩二・岩崎 拓・児嶋 格・松岡 悠・和田太一, 2022. 近木川干潟再生地の経過観察 (2018 年度). 貝塚の自然, (22): 1–35.
- 山田浩二・岩崎 拓・大島麻里・児嶋 格・寺田拓真・和田太一, 2014. 近木川干潟再生地の経過観察 (2012 年度). 貝塚の自然, (16): 1–16.
- 山田浩二・岩崎 拓・大島麻里・児嶋 格・寺田拓真・和田太一, 2016. 近木川干潟再生地の経過観察 (2013 年度). 貝塚の自然, (17): 1–27.

- 山田浩二・岩崎 拓・大畠麻里・児嶋 格・寺田拓真・和田太一, 2017. 近木川干潟再生地の経過観察 (2014 年度) . 貝塚の自然, (18): 1-34.
- 山田浩二・岩崎 拓・大畠麻里・児嶋 格・寺田拓真・和田太一, 2018. 近木川干潟再生地の経過観察 (2015 年度) . 貝塚の自然, (19): 1-34.
- 山田浩二・岩崎 拓・大畠麻里・児嶋 格・寺田拓真・和田太一, 2020a. 近木川干潟再生地の経過観察 (2016 年度) . 貝塚の自然, (20): 47-82.
- Ye, B., Saito, T., Hirano, T., Dong, Z., Do, V. T., and Chiba, S., 2020. Human-geographic effects on variations in the population genetics of *Sinotaia quadrata* (Gastropoda: Viviparidae) that historically migrated from continental East Asia to Japan. *Ecology and Evolution*, 10: 8055-8072.
- 横山 寿, 2019. 外来シジミ類の分類と生態 - I 日本と世界における侵入・拡散 . 陸水学雑誌, 80: 125-144.

付表. 大阪府泉州地域産陸・淡水棲軟体動物チェックリスト 2024 (Checklist 2024 of terrestrial and freshwater mollusks in Senshu area, Osaka Prefecture, Japan)

No.	タクソン	文献記録; 標本記録	ステータス
		二枚貝綱 Class Bivalvia イシガイ目 Order Unionida イシガイ科 Family Unionidae	
1	ミナミタガイ <i>Beringiana fukuharai</i> Sano, Hattori and Kondo in Lopes-Lima et al., 2020	大阪府, 2000a, b; 堺市, 2008, 2021a; 上地, 2020b; 上地・柏尾, 2020; Sano et al., 2022; KSNHM	
2	イシガイ属の一種 <i>Nodularia</i> sp.	KSNHM	FR
3	マツカサガイ <i>Pronodularia japonensis</i> (Lea, 1859)	堺市, 2008, 2021a, b; 上地, 2020a; 上地・柏尾, 2020; KSNHM	NT (ERL)
4	オグラヌマガイ <i>Sinanodonta tumens</i> (Haas, 1910)	KSNHM	FR; EN (ERL); CR+EN (ORL)
5	ヌマガイ種群 <i>Sinanodonta lauta</i> species complex	堺市, 2008, 2021a; 上地・柏尾, 2020; KSNHM	
		ドブシジミ目 Order Sphaeriida ドブシジミ科 Family Sphaeriidae	
6	ドブシジミ <i>Musculium japonicum</i> (Westerlund, 1883)	岸和田市, 1990; 堺市, 2008, 2021a, b; KSNHM	
		マルスダレガイ目 Order Venerida シジミ科 Family Cyrenidae	
7	タイワンシジミ <i>Corbicula fluminea</i> (Müller, 1774) + マシジミ <i>C. leana</i> Prime, 1864	山田・岩崎, 2005; 堺市, 2008, 2021a, b; 岩崎・山田, 2010; 上地・柏尾, 2020; KSNHM; NSSM; OMNH	AS (part)
		アマオブネ目 Order Neritopsida ゴマオカタニシ科 Family Hydrocenidae	
8	ゴマオカタニシ <i>Georissa japonica</i> Pilsbry, 1900	渡部, 1955; KSNHM; NSSM	NT (ERL); VU (ORL)
		ヤマキサゴ科 Family Helicinidae	
9	ヤマキサゴ <i>Waldemaria japonica</i> (Adams, 1861)	渡部, 1955; 東, 1966; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2013, 2017, 2023; 田中, 2017; KSNHM	
		アマオブネ科 Family Neritidae	
10	イシマキガイ <i>Clithon retropictum</i> (Martens, 1878)	大阪府, 2000a, b; 山田・岩崎, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012; 山田ほか, 2014, 2016, 2017, 2018, 2020a, b, 2022; 山田, 2019b; 堺市, 2021b; KCMN; NSSM; OMNH	

No.	タクソン	文献記録；標本記録	ステータス
ヤマタニシ目 Order Cyclophorida			
ヤマタニシ科 Family Cyclophoridae			
11	ヤマタニシ <i>Cyclophorus herklotsi</i> Martens, 1861	渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017, 2023; 田中, 2017; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	
12	アツブタガイ <i>Cyclotus campanulatus</i> Martens, 1865	渡部, 1955; 芝本, 1968; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010; 岩崎, 2013; 田中, 2017; KCMN; KSNHM; NSSM	
13	イノウエヤマトガイ <i>Japonia inouei</i> Kuroda and Habe in Habe, 1961	渡部, 1955; 波部, 1961; 湊, 1975; 大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2010, 2017; 田中, 2017; KCMN; KSNHM; NSMT; TOYA; WMNH	VU (ERL); VU (ORL)
14	ミヤコムシオイ <i>Metalycaeus hirasei</i> (Pilsbry, 1900)	渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017, 2023; 田中, 2017; KCMN; KSNHM; NSSM	
15	ミジンヤマタニシ <i>Nakadaella micron</i> (Pilsbry, 1900)	渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2017, 2019; 田中, 2017; 山田, 2019a; KSNHM; NSSM; WMNH	
16	ヤマクルマ <i>Spirostoma japonicum</i> (Adams, 1867)	渡部, 1955; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 岩崎, 2013; 児嶋, 2010, 2017, 2019, 2023; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM; NSSM	
17	ヤマクルマに比較される種 <i>Spirostoma cf. japonicum</i> (Adams, 1867)	KSNHM	
ゴマガイ科 Family Diplommatinidae			
18	ゴマガイ <i>Diplommatina cassa</i> Pilsbry, 1901	松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017; 田中, 2017; 堺市, 2021b; KSNHM; NSMT; NSSM	
19	ヒダリマキゴマガイ <i>Palaina pusilla</i> (Martens, 1877)	渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2017, 2019; KCMN; KSNHM; NSSM	
アズキガイ科 Family Pupinidae			
20	アズキガイ <i>Pupinella rufa</i> (Adams and Sowerby II, 1864)	渡部, 1955; 東, 1966; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017, 2023; 長谷川ほか, 2022; KCMN; KSNHM; NSSM; OPM	VU (ORL)
タニシ目 Order Viviparida			
タニシ科 Family Viviparidae			
21	マルタニシ <i>Cipangopaludina cf. laena</i> (Martens, 1861)	岸和田市, 1990; 堺市, 2021a, b; 上地ほか, 2022b; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	VU (ERL); VU (ORL)
22	オオタニシ <i>Heterogen japonica</i> (Martens, 1861)	岸和田市, 1990; 大阪府, 2000a,b; 堺市, 2008, 2021a, b; 児嶋, 2010; Hirano et al., 2015; 上地・柏尾, 2020; 上地ほか, 2022b; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	VU (ORL)
23	ヒメタニシ <i>Sinotaia histrica</i> (Gould, 1859)	岸和田市, 1990; 大阪府, 2000a; 山田・岩崎, 2004; 児嶋, 2010; 児嶋ほか, 2020; 上地, 2020b; 上地・柏尾, 2020; Ye et al., 2020; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2022b; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH; TOYA	
リンゴガイ目 Order Ampullariida			
リンゴガイ科 Family Ampullariidae			
24	スクミリンゴガイ <i>Pomacea canaliculata</i> (Lamarck, 1822)	山田・岩崎, 2002, 2003a, 2010; 児嶋, 2010; 隅谷ほか, 2010; 石田, 2020a; Ishida, 2020; 児嶋ほか, 2020; 上地・柏尾, 2020; 堺市, 2021a, b; 長谷川ほか, 2022; 上地ほか, 2022b; 児嶋ほか, 2023; KSNHM; NSSM; OMNH	AS

No.	タクソン	文献記録；標本記録	ステータス
		オニツノガイ目 Order Cerithiida カワニナ科 Family Semisulcospiridae	
25	カワニナ類 <i>Semisulcospira libertina</i> group	岸和田市, 1990; 田口ほか, 1999; 大阪府, 2000a,b; 山田・岩崎, 2003b, 2005; 植野, 2007; 堺市, 2008, 2021a, b; 岩崎・山田, 2010, 2012; 児嶋, 2010; 児嶋ほか, 2020; 上地・柏尾, 2020; 上地ほか, 2022b; GMNHJ; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	
		エゾタマキビ目 Order Littorinida カワザンショウ科 Family Assimineidae	
26	ウスイロオカチグサ <i>Solenomphala debilis</i> (Gould, 1859)	松村, 2001; 児嶋, 2010, 2023; 上地・柏尾, 2020; 上地ほか, 2022b; 児嶋ほか, 2017, 2020; 馬場・上地, 印刷中; KCMN; KSNHM	AS
		エゾマメタニシ科 Family Bithyniidae	
27	ヒメマルマメタニシ <i>Gabbia kiusiuensis</i> (Hirase, 1927)	KSNHM	FR; VU (ERL)
28	マメタニシ <i>Parafossarulus manchouricus japonicus</i> (Pilsbry, 1901)	大阪府, 2000a,b	PM; UR; CR (ERL); CR+EN (ORL)
		モノアラガイ目 Order Lymnaeida モノアラガイ科 Family Lymnaeidae	
29	コシタカヒメモノアラガイ <i>Galba</i> cf. <i>truncatula</i> (Müller, 1774)	児嶋, 2010; 児嶋ほか, 2020; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2022b; KSNHM; OMNH	
30	ヒメモノアラガイ <i>Orientogalba</i> cf. <i>ollula</i> (Gould, 1859)	岸和田市, 1990; 大阪府, 2000a,b; 山田・岩崎, 2006; 児嶋, 2010, 2023; 児嶋ほか, 2020; 上地・柏尾, 2020; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2022b, 2023; KCMN; KSNHM; OMNH	
31	ハブタエモノアラガイ <i>Pseudosuccinea columella</i> (Say, 1817)	山田・岩崎, 2006; 高倉, 2008; 岩崎・山田, 2010; 児嶋ほか, 2020; 上地, 2020b; 上地・柏尾, 2020; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2022b; KCMN; KSNHM	AS
32	モノアラガイ <i>Radix plicatula</i> (Benson, 1842)	岸和田市, 1990; 田口ほか, 1999; 大阪府, 2000a,b; 山田・岩崎, 2002; 堺市, 2008, 2021a, b; 上地・柏尾, 2020; 上地ほか, 2022b; KCMN; KSNHM	N T (E R L) ; CR+EN (ORL)
		ヒラマキガイ科 Family Planorbidae	
33	カワネジガイ <i>Camptoceras hirasei</i> Walker, 1919	堺市, 2021a, b	UR; CR (ERL); EX (ORL)
34	メリケンコザラ <i>Ferrissia californica</i> (Rowell, 1863)	児嶋ほか, 2020; 上地, 2020b; 上地・柏尾, 2020; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2022b; KCMN; KSNHM	AS; DD (ORL) (part)
35	カワコザラ <i>Ferrissia nipponica</i> (Kuroda in Uchida, 1949)	岸和田市, 1990; 大阪府, 2000a; 堺市, 2021b	PM; UR
36	ヒラマキミズマイマイ <i>Gyraulus chinensis</i> (Dunker, 1848)	岸和田市, 1990; 大阪府, 2000a; 山田・岩崎, 2002, 2003a, b, 2005; 堺市, 2008, 2021a, b; 岩崎・山田, 2010; 児嶋ほか, 2020; 上地ほか, 2022b; 馬場・上地, 印刷中; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	
37	ミズコハクガイ <i>Gyraulus soritai</i> (Habe, 1976)	児嶋ほか, 2020; KCMN	FR; VU (ERL)
38	ヒメヒラマキミズマイマイ <i>Gyraulus</i> sp. sensu Saito et al., 2017	馬場・上地, 印刷中; KSNHM	EN (ERL)
39	レンズヒラマキ (クルマヒラマキ) <i>Helicorbis</i> cf. <i>cantori</i> (Benson, 1850)	堺市, 2008, 2021a, b	UR; VU (ERL); DD (ORL)

No.	タクソン	文献記録：標本記録	ステータス
40	インドヒラマキ	<i>Indoplanorbis exustus</i> (Deshayes, 1833) 堺市, 2021b; KCMN	AS
41	ヒロマキミズマイマイ	<i>Menetus dilatatus</i> (Gould, 1841) 西山, 2021; 上地ほか, 2022b; 納谷, 2023; KSNHM	AS
42	ヒラマキモドキ	<i>Polypylis hemisphaerula</i> (Benson in Cantor, 1842) 堺市, 2008, 2021a, b; 児嶋ほか, 2020; KCMN; KSNHM	NT (ERL)
サカマキガイ科 Family Physidae			
43	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i> Draparnaud, 1805 岸和田市, 1990; 田口ほか, 1999; 大阪府, 2000a; 山田・岩崎, 2003b, 2004, 2005, 2006, 2008; 高倉, 2008; 岩崎・山田, 2010; 児嶋, 2010; 児嶋ほか, 2020; 上地, 2020b; 上地・柏尾, 2020; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2022b; 馬場・上地, 印刷中; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	AS
オカミミガイ目 Order Ellobiida			
オカミミガイ科 Family Ellobiidae			
44	ニホンケシガイ	<i>Carychium nipponense</i> Pilsbry and Hirase, 1904 松村, 2001; 児嶋, 2019; 山田, 2019a; KCMN; KSNHM	CR+EN (ORL)
アシヒダナメクジ目 Order Veronicellida			
ホソアシヒダナメクジ科 Family Rathouisiidae			
45	イボイボナメクジ	<i>Granulilimax fuscicornis</i> Minato, 1989 児嶋, 2017; 田中, 2017	NT (ERL); DD (ORL)
46	ホソアシヒダナメクジ科の一種	<i>Rathouisiidae</i> gen et sp. 田中, 2017	
マイマイ目 Order Helicida			
アフリカマイマイ科 Family Achatinidae			
47	マルオカチョウジ	<i>Allopeas brevispira</i> (Pilsbry and Hirase, 1904) 渡部, 1955; 松村, 1982, 2001; 大阪府, 2000a	
48	トクサオカチョウジ	<i>Allopeas javanicum</i> (Reeve, 1849) 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 柏尾ほか, 2017; 児嶋, 2017, 2019; 堺市, 2021b; 澤田, 2021; 上地ほか, 2023; KSNHM; OMNH	AS
49	オカチョウジガイ	<i>Allopeas kyotoense</i> (Pilsbry and Hirase, 1904) 渡部, 1955; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2023; KSNHM; NSMT; NSSM	
50	ホソオカチョウジ	<i>Allopeas pyrgula</i> (Schmacker and Boettger, 1891) 渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 柏尾ほか, 2017; 児嶋, 2017; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2023; KSNHM	
51	オオクビキレガイ	<i>Rumina decollata</i> (Linnaeus, 1758) 柏尾ほか, 2017, 2022; 石田, 2020b, 2022; 堺市, 2021a, b; 上地ほか, 2023; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	AS
タワラガイ科 Family Diapheridae			
52	タワラガイ	<i>Sinoennea iwakawa</i> (Pilsbry, 1900) 渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017; 田中, 2017; KSNHM; NSSM	
ナタネガイ科 Family Punctidae			
53	ナタネガイ	<i>Punctum amblygonum amblygonum</i> (Reinhardt, 1877) 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003	PM
54	ヒメナタネ	<i>Punctum amblygonum pretiosum</i> (Gude, 1900) 堺市, 2021b; NSSM	PM
55	カトウナタネ	<i>Punctum elachistum</i> Pilsbry and Hirase, 1904 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2017, 2019; 山田, 2019a; 堺市, 2021b; OMNH	PM

No.	タクソン	文献記録；標本記録	ステータス
56	ツクシナタネ	<i>Punctum morseanum</i> Pilsbry, 1902 澤田, 2021	PM; UR
イシノシタ科 Family Helicodiscidae			
57	ノハラノイシノシタ	<i>Lucilla singleyana</i> (Pilsbry, 1889) 和田ほか, 2015; 児嶋, 2017; 長谷川ほか, 2022; KCMN	AS
オカモノアラガイ科 Family Succineidae			
58	ナガオカモノアラガイ (カンサイオカモノアラガイ)	<i>Oxyloma hirasei</i> (Pilsbry, 1901) 松村, 1982, 2001; 大阪府, 2000a,b; 堺市, 2008, 2021a; 岩崎・山田, 2010; 児嶋, 2010, 2017; 山田, 2019b; 児嶋ほか, 2020; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM; NSSM	NT (ERL); NT (ORL)
59	ヒメオカモノアラガイ	<i>Succinea lyrata</i> Gould, 1859 児嶋ほか, 2017, 2020; KCMN; KSNHM; OMNH	
60	コシタカオカモノアラガイ	<i>Succinea</i> sp. 1 sensu Hayase and Kimura, 2011 上地ほか, 2023; KSNHM	AS
61	ケショウオカモノアラガイ	<i>Succinea</i> sp. 2 sensu Hayase and Kimura, 2011 上地ほか, 2023; KSNHM	AS
サナギガイ科 Family Pupillidae			
62	チャーリーサナギモドキ	<i>Pupoides albilabris</i> (Adams, 1841) 上地, 2021; 上地ほか, 2023; KSNHM	AS
キセルモドキ科 Family Enidae			
63	キセルモドキ	<i>Mirus reinianus</i> (Kobelt, 1875) 渡部, 1955; 児嶋, 2017; KCMN	CR+EN (ORL)
スナガイ科 Family Gastrocoptidae			
64	スナガイ	<i>Gastrocopta armigerella</i> (Reinhardt, 1877) 柏尾ほか, 2017; 澤田, 2021	NT (ERL)
65	メリケンスナガイ	<i>Gastrocopta contracta</i> (Say, 1822) 上地ほか, 2023; KSNHM	AS
ミジンサナギガイ科 Family Truncatellinidae			
66	ナガナタネ	<i>Columella edentula</i> (Draparnaud, 1805) 児嶋, 2019; KCMN	PM
ミジンマイマイ科 Family Valloniidae			
67	マルナタネ	<i>Parasitala</i> sp. 大阪府, 2000a; 松村, 2001	PM; UR
68	ミジンマイマイ	<i>Vallonia pulchellula</i> (Heude, 1882) 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 和田ほか, 2015; 児嶋, 2017; 柏尾ほか, 2017; 澤田, 2021; 上地ほか, 2023; KCMN; KSNHM	
キバサナギガイ科 Family Vertiginidae			
69	ナタネキバサナギ	<i>Vertigo ovata</i> Say, 1822 上地ほか, 2022a; KSNHM	
キセルガイ科 Family Clausiliidae			
70	ウスベニギセル	<i>Megalophaedusa aurantiaca aurantiaca</i> (Boettger, 1877) 東・波部, 1939; 波部, 1939; 渡部, 1955; 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2013, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; 山田, 2019a; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM; NSMT; NSSM	
71	エルベリギセル	<i>Megalophaedusa aurantiaca erberi</i> (Möllendorff, 1885) 東・波部, 1939; 波部, 1939; 渡部, 1955; 東, 1966, 1971; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017; KSNHM; NSMT	DD (ERL)

No.	タクソン	文献記録：標本記録	ステータス
72	シリオレギセル	<i>Megalophaedusa bilabrata</i> (Smith, 1876) 渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017; 堺市, 2021b; KSNHM; NSSM	
73	チビギセル	<i>Megalophaedusa expansilabris</i> (Boettger, 1877) 東, 1966, 1971	PM; UR
74	ホソヒメギセル	<i>Megalophaedusa gracilispira</i> (Möllerndorff, 1882) 東・波部, 1939; 波部, 1939; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2013, 2017; 西, 2022; KSNHM; NSSM	VU (ERL); VU (ORL)
75	オオギセル	<i>Megalophaedusa martensi</i> (Martens, 1861) 渡部, 1955; 東, 1966; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 湊, 1994; 大阪府, 2000a,b; 児嶋, 2013, 2017; 岩崎, 2013; KCMN; KSNHM; NSSM; TOYA	N T (E R L); CR+EN (ORL)
76	コシボソギセル	<i>Megalophaedusa nankaidoensis</i> (Kuroda, 1955) 渡部, 1955; 大阪府, 2000a, b; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2017	N T (E R L); CR+EN (ORL)
77	ツムガタギセル	<i>Megalophaedusa pinguis platydera</i> (Martens, 1876) 渡部, 1955; 東・波部, 1939; 波部, 1939; 芝本, 1968; 東, 1971; 松村, 1982, 2001, 2003; 湊, 1994; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017; 田中, 2017; 西, 2022; KSNHM; NSMT; NSSM	
78	コスジギセル	<i>Megalophaedusa plicilabris</i> (Adams, 1868) 渡部, 1955; 東・波部, 1939; 波部, 1939; 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017; 西, 2022; NSMT	NT (ERL)
79	ナラビヒダギセル	<i>Megalophaedusa proba caryostoma</i> (Möllerndorff, 1882) 渡部, 1955; 東・波部, 1939, 波部, 1939; 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 大阪府, 2000a; 松村, 2001; NSSM	
80	ゼイギセル	<i>Megalophaedusa proba proba</i> (Adams, 1868) 湊, 1994, 大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2013, 2017; 西, 2022	
81	カギヒダギセル	<i>Mundiphaedusa heteroptyx</i> (Pilsby, 1902) 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 東・波部, 1939; 湊, 1944; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2013, 2017; KCMN; KSNHM; NSSM; OPM; TOYA	V U (E R L); CR+EN (ORL)
82	カスガコギセル	<i>Reinia hungerfordiana</i> (Möllerndorff, 1882) 東・波部, 1939; 波部, 1939; 渡部, 1955; 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 湊, 1944; 児嶋, 2013, 2017; 大古場, 2017; 西, 2022; NSMT	CR+EN (ERL); CR+EN (ORL)
83	ギュリキギセル	<i>Stereophaedusa addisoni</i> (Pilsbry, 1901) 東・波部, 1939; 渡部, 1955; 東, 1966, 1971; 湊, 1994; 大阪府, 2000a; Motochin et al. 2017; 西, 2022; GPM; NSMT; NSSM; OPM; TOYA; WMNH	CR+EN (ORL)
84	コンボウギセル	<i>Stereophaedusa hickonis</i> (Boettger, 1877) 波部, 1939; 渡部, 1955; 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2013, 2017; 田中, 2017; KSNHM; NSSM	
85	ナミギセル	<i>Stereophaedusa japonica</i> (Crosse, 1871) 渡部, 1955; 芝本, 1968; 東, 1971; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017, 2023; 田中, 2017; 堺市, 2021b; KSNHM; NSSM	
86	ナミコギセル	<i>Tauphaedusa tau</i> (Boettger, 1877) 渡部, 1955; 東・波部, 1939; 波部, 1939; 芝本, 1968; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2017, 2023; 柏尾ほか, 2017; 堺市, 2021b; 澤田, 2021; 上地ほか, 2023; KCMN; KSNHM; NSMT; NSSM; OMNH	
コウラナメクジ科 Family Limacidae			
87	チャコウラナメクジ属の一種	<i>Ambigolimax</i> sp. 大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2010, 2017; 和田ほか, 2015; 柏尾ほか, 2017; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2023; KSNHM	AS
88	キイロナメクジ	<i>Limacus</i> cf. <i>flavus</i> (Linnaeus, 1758) 渡部, 1955; 堺市, 2021b	AS; PM; UR
ノコウラナメクジ科 Family Agriolimacidae			
89	ノハラナメクジ	<i>Deroceras laeve</i> (Müller, 1774) 児嶋, 2010	PM; UR

No.	タクソン	文献記録；標本記録	ステータス
コハクガイ科 Family Gastrodontidae			
90	コハクガイ <i>Zonitoides arboreus</i> (Say, 1817)	渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 柏尾ほか, 2017; 児嶋, 2017; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2023; KCMN; KSNHM; NSSM; OMNH	AS
エゾエンザ科 Family Pristilomatidae			
91	ヒメコハクガイ <i>Hawaia minuscula</i> (Binney, 1840)	大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 和田ほか, 2015; 児嶋, 2017; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2023; KCMN; KSNHM; NSMT; NSSM	
シタラ科 Family Euconulidae			
92	タカキビ <i>Coneuplecta praealta</i> (Pilsbry, 1902)	大阪府, 2000a; 松村, 2001	NT (ERL)
93	ヒメベッコウ <i>Discoconulus sinapidium</i> (Reinhardt, 1877)	大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2017, 2019; 田中, 2017; OMNH; NSSM	
94	キビガイ <i>Gastrodontella stenogyra</i> (Adams, 1868)	大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2013, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; 堺市, 2021b; KCMN; NSSM	
95	トガリキビ <i>Parakaliella acutanguloides</i> Kuroda and Azuma, 1982	黒田・東, 1982; 児嶋, 2013, 2017	DD (ERL); CR+EN (ORL)
96	ハリマキビ <i>Parakaliella harimensis</i> (Pilsby, 1901)	児嶋, 2013, 2017; 堺市, 2021b; KSNHM	
97	スジキビ <i>Parakaliella ruida</i> (Pilsby, 1901)	大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2017	NT (ERL); CR+EN (ORL)
98	ウスイロシタラ <i>Parasitala pallida</i> (Pilsby, 1902)	渡部, 1955; 東, 1966; 平瀬, 1908; 前田ほか, 1987; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2013, 2017, 2019; 堺市, 2021b; 西, 2022; KCMN; KSNHM; NSSM	VU (ORL)
99	マルシタラ <i>Parasitala reinhardti</i> (Pilsbry, 1900)	大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2017; 堺市, 2021b; NSSM	
100	コシタカシタラ <i>Sitalina circumcincta</i> (Reinhardt, 1883)	大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2017, 2019; KCMN	
101	ウメムラシタラ <i>Sitalina japonica</i> (Kuroda and Habe, 1943)	大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2017; NSSM	NT (ERL)
102	カサキビ <i>Trochochlamys crenulata</i> (Gude, 1900)	渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2013, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; NSSM	
103	オオウエキビ <i>Trochochlamys fraterna</i> (Pilsby, 1900)	大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2017, 2019	DD (ERL)
104	ヒメカサキビ <i>Trochochlamys subcrenulata</i> (Pilsby, 1901)	大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2017, 2019	NT (ERL)
105	オオクラヒメベッコウ <i>Yamatochlamys lampira</i> (Pilsbry and Hirase, 1904)	児嶋, 2013, 2017; 田中, 2017; KSNHM; NSSM	
106	ナミヒメベッコウ <i>Yamatochlamys vaga</i> (Pilsbry and Hirase, 1904)	渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; KSNHM; NSSM	
ベッコウマイマイ科 Family Helicarionidae			
107	オオヒラベッコウ <i>Bekkochlamys dulcis</i> (Pilsbry, 1902)	松村, 1982, 2001; 大阪府, 2000a NSSM	DD (ERL)
108	ヒラベッコウ <i>Bekkochlamys micrograpta</i> (Pilsbry, 1900)	渡部, 1955; 東, 1966; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017; 田中, 2017	DD (ERL)

No.	タクソン	文献記録；標本記録	ステータス
109	アジアベッコウ	<i>Macrochlamys indica</i> Godwin-Austen, 1883 KSNHM	FR
110	キヌツヤベッコウ	<i>Nipponochlamys semisericata</i> (Pilsbry, 1902) 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2017; NSSM	DD (ERL)
111	ウラジロベッコウ	<i>Urazirochlamys doenitzii</i> (Reinhardt, 1877) 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2017; 田中, 2017; KCMN ナメクジ科 Family Philomycidae	
112	ナメクジ	<i>Meghimatium bilineatum</i> (Benson, 1842) 渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2017; 堺市, 2021b	
113	ヤマナメクジ	<i>Meghimatium fruhstorferi</i> (Collonge, 1901) 渡部, 1955; 芝本, 1968; 東, 1971; 大阪府, 2000a; 松村, 2001; 岩崎, 2013; 児嶋, 2010, 2017; 田中, 2017; 堺市, 2021b; Ito et al., 2023; KCMN; KSNHM; OMNH ナンバンマイマイ科 Family Camaenidae	
114	ウスカワマイマイ	<i>Acusta</i> cf. <i>sieboldiana</i> (Pfeiffer, 1850) 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2017, 2019, 2023; 和田ほか, 2015; 田中, 2017; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2023; KSNHM; NSSM; OMNH; TOYA	
115	エンドウマイマイ	<i>Aegista commoda endo</i> (Pilsbry & Hirase, 1904) 西, 2022	
116	オトメマイマイ	<i>Aegista goodwini</i> (Smith, 1876) 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 松村, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017; 堺市, 2021b; KSNHM; OMNH	
117	クロオビオトメマイマイ	<i>Aegista latizona</i> (Kuroda and Habe, 1949) 東・渡部, 1940; 東, 1966; 松村, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; Hirano et al., 2014; NSMT; NSSM; WMNH	NT (ERL); CR+EN (ORL)
118	チャイロオトメマイマイ	<i>Aegista mesogonia</i> (Pilsbry, 1900) 東・渡部, 1940; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 児嶋, 2010, 2017, 2023; 堺市, 2021b	
119	コオオベソマイマイ	<i>Aegista proba mimula</i> (Pilsbry, 1901) 東・渡部, 1940; 芝本, 1968	
120	アワジオトメマイマイ	<i>Aegista</i> sp. sensu Hirano and Fukuda, 2020 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 芝本, 1968; 松村, 2001; 児嶋, 2013, 2017, 2023; 田中, 2017; KSNHM; NSSM	
121	オオベソマイマイ属の一種	<i>Aegista</i> sp. KSNHM	
122	フチマルオオベソマイマイ	<i>Aegista tumida tumida</i> (Gude, 1901) 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2013, 2017; KSMHN; NSSM; NSMT	NT (ERL)
123	オオケマイマイ	<i>Aegista vulgivaga</i> (Schmacker and Boettger, 1890) 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 芝本, 1968; 松村, 1982, 1996, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; 堺市, 2021b; 西, 2022; KCMN; KSNHM; NSMT; NSSM	
124	コハクオナジマイマイ	<i>Bradybaena pellucida</i> Kuroda and Habe in Habe, 1953 上地ほか, 2020; 堺市, 2021b; KSNHM	AS
125	オナジマイマイ	<i>Bradybaena similis</i> (Férussac, 1822) 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001, 2003; 堺市, 2021b; 上地ほか, 2023; KSNHM; NSMT; NSSM; OMNH	AS
126	クチマガリマイマイ	<i>Coelorus cavicollis</i> (Pilsbry, 1900) 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 松村, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 堺市, 2008, 2021a, b; 児嶋, 2010, 2017, 2023; 田中, 2017; KCMN; KSNHM; OMNH; TOYA	NT (ERL)
127	クチベニマイマイ	<i>Euhadra amaliae</i> (Kobelt, 1875) 東・渡部, 1940; 渡部, 1955; 芝本, 1968; 松村, 1996, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2017, 2023; 田中, 2017; 田中, 2017; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM; NSMT; NSSM; OMNH; OPM	

No.	タクソン	文献記録：標本記録	ステータス
128	イセノナミマイマイ <i>Euhadra eoa communisiformis</i> Kanamaru, 1940 児嶋, 2017		
129	ギュリキマイマイ <i>Euhadra eoa gulicki</i> Pilsbry, 1928 東・波部, 1940; 渡部, 1955; 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 松村, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 岩崎, 2013; 児嶋, 2010, 2013, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; 山田, 2019a; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM; NSMT; NSSM; TOYA		
130	ナミマイマイ <i>Euhadra sandai communis</i> Pilsbry, 1928 東・波部, 1940; 渡部, 1955; 松村, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2017; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM; NSMT; OMNH		
131	セトウチマイマイ <i>Euhadra subnimbosa</i> (Kobelt, 1894) 堺市, 2021b		PM; UR
132	ケハダヒロウドマイマイ <i>Nipponochloritis fragilis</i> (Gude, 1900) 東・波部, 1940; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 堺市, 2008, 2021a, b; 児嶋, 2010, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; KSNHM; WMNH		NT (ERL); VU (ORL)
133	ヌノメニッポンマイマイ <i>Satsuma granulosa</i> (Pilsbry, 1902) 渡部, 1955; 児嶋, 2017, 2019; 田中, 2017; KCMN; KSNHM		FR
134	ニッポンマイマイ <i>Satsuma japonica japonica</i> (Pfeiffer, 1847) 渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2017; 田中, 2017; KSNHM; OMNH; YAMA		PM (part)
135	ムロマイマイ <i>Satsuma japonica peculiaris</i> (Adams, 1868) 芝本, 1968		PM; UR
136	マルニッポンマイマイ <i>Satsuma japonica satsuma</i> (Pilsbry, 1900) 渡部, 1955; 大阪府, 2000a; 松村, 2001; 児嶋, 2017, 2023		PM
137	コベソマイマイ <i>Satsuma myomphala</i> (Martens, 1865) 東・波部, 1940; 渡部, 1955; 東, 1966; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 児嶋, 2010, 2013, 2017, 2019, 2023; 田中, 2017; 堺市, 2021b; KCMN; KSNHM		
138	ヒメタマゴマイマイ <i>Satsuma pagodula</i> (Ehrmann, 1900) 東・波部, 1940; 渡部, 1955; 東, 1966, 1971; 芝本, 1968; 松村, 1982, 2001, 2003; 大阪府, 2000a; 田中, 2017; 堺市, 2021a, b; KCMN; NSSM		PM (part); NT (ERL); DD (ORL)

略記

1. 文献の編者名

岸和田市：岸和田市教育委員会・岸和田市教育研究所，大阪府：大阪府環境農林水産部緑の環境整備室，堺市：堺市環境局環境保全部環境共生課

2. 機関名

GMNHJ：群馬県立自然史博物館（Gunma Museum of Natural History），GPM：岐阜県博物館（Gifu Prefectural Museum），KCMN：貝塚市立自然遊学館（Kaizuka City Museum of Natural History），KSNHM：きしわだ自然資料館（Natural History Museum, Kishiwada City），NSMT：国立科学博物館（National Museum of Nature and Science）
NSSM：西宮市貝類館（Nishinomiya Shell Museum），OMNH：大阪市立自然史博物館（Osaka Museum of Natural History），OPM：沖縄県立博物館・美術館（Okinawa Prefectural Museum & Art Museum），TOYA：富山市科学博物館（Toyama Science Museum），WMNH：和歌山県立自然博物館（Wakayama Prefectural Museum of Natural History），YAMA：山形県立博物館（Yamagata Prefectural Museum）

4. 絶滅リスクに関するステータスとレッドリスト

EX：絶滅（Extinct），CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（Critically Endangered + Endangered），CR：絶滅危惧ⅠA類（Critically Endangered），EN：絶滅危惧ⅠB類（Endangered），VU：絶滅危惧Ⅱ類（Vulnerable），NT：準絶滅危惧（Near Threatened），DD：情報不足（Data Deficient），ERL：環境省レッドリスト2020（Red List 2020 of Ministry of the Environment, Government of Japan）（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2020），ORL：大阪府レッドリスト2014（Red List 2014 of Osaka Prefecture）（大阪府環境農林水産部緑の環境整備室，2014）

5. その他のステータス

AS：確実に外来種と判断される（definitely considered alien species），FR：泉州地域における初記録（first records in Senshu area），part：部分的に該当する（partially applicable），PM：誤同定が疑われる（probably misidentified），UR：不確実な記録 - 記載や写真がなく，博物館収蔵標本も見当たらない（uncertain records -no descriptions, no photographs, no specimens in museum collections）